

ニ本人所屬ノ隊
或ハ鎮守府ニ願
出ルニ於テハ詮
議ノ上往復ヲ除
キ十四日以内ノ
歸省ヲ許ス可シ
尤モ旅費ハ自辨
タル可シ但生兵
二等若水兵二等
若火夫ノ卒業ニ
至ラス或ハ臨時
ニ演習觀兵ノ墾
アルトキ又ハ航
海中ハ木條ノ限
ニ在ラス

計何人

(編者曰裏面ハ
唯引ノミナ
レハ省路ス)

第九書式 國民兵名簿

用紙美濃紙

姓名	備考	族職業	誕生年月日	住所 町(區)村	姓名	備考	族職業	誕生年月日	住所 町(區)村
		士族					農		
		平民					工		

第十四章 補充
員及ヒ豫備徵員
第九十條 補充員
ハ臨時補缺ヲ除
クノ外鎮臺ニ於
テ毎年九月一日
ノ現役兵缺員ニ
應シ概ネ十月二
十日ヨリ同月三
十一日迄ニ入營
スルモノトス但
近衛兵海軍兵ニ
在テハ近衛局海
軍省ヨリ所屬ノ
人員ヲ九月二十

姓名	備考	族職業	誕生年月日	住所 町(區)村	姓名	備考	族職業	誕生年月日	住所 町(區)村

國民兵名簿

何府縣

<p>日迄ニ陸軍省ニ 通牒シ陸軍省ハ 之ヲ各軍管ニ賦 課ス可シ</p> <p>第九十一條 補充 員入營ノ期ニ臨 ミ疾病又ハ犯罪 等ニテ入營スル 能ハサル者ハ其 事實ヲ詳記シ本 人所持ノ番號割 符ヲ添へ一疾病 ハ醫師ノ診斷書 (第五書式)ヲ添 へ一速ニ戸長ニ</p>	<p style="text-align: center;">第十書式 徴集人員配當表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">軍</th> <th colspan="2">何</th> <th rowspan="2">年</th> <th colspan="2">何</th> <th colspan="2">治</th> <th rowspan="2">明</th> <th rowspan="2">師</th> <th rowspan="2">管</th> </tr> <tr> <th>臺</th> <th>鎮</th> <th>役</th> <th>現</th> <th>衛</th> <th>近</th> <th>府縣</th> </tr> <tr> <td>輜 重 兵</td> <td>工 兵</td> <td>砲 兵</td> <td>騎 兵</td> <td>步 兵</td> <td>計</td> <td>工 兵</td> <td>砲 兵</td> <td>騎 兵</td> <td>少 兵</td> <td>兵 種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計</td> </tr> </table>	軍	何		年	何		治		明	師	管	臺	鎮	役	現	衛	近	府縣	輜 重 兵	工 兵	砲 兵	騎 兵	步 兵	計	工 兵	砲 兵	騎 兵	少 兵	兵 種																																																																																																																									計	<p>備考</p>
軍	何		年	何		治		明	師				管																																																																																																																																											
	臺	鎮		役	現	衛	近			府縣																																																																																																																																														
輜 重 兵	工 兵	砲 兵	騎 兵	步 兵	計	工 兵	砲 兵	騎 兵	少 兵	兵 種																																																																																																																																														
										計																																																																																																																																														

<p>届出可シ戸長ハ 奥書證印シ郡區 長ヲ經テ府縣廳 ニ差出ス可シ該 廳ニ於テハ其次 番號ノ者ヨリ順 次ニ繰上ケ徴集 人員ヲ充實シ入 營セシメ其旨ヲ 府縣駐在官ニ通 牒ス可シ</p> <p>第九十二條 前條 ノ事故ニ據リ入 營セサル者ハ翌 年徴集ノ期ニ當</p>	<p style="text-align: center;">第十一書式 検査日割表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">管</th> <th rowspan="2">現</th> <th rowspan="2">役</th> <th colspan="3">徴</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">看</th> <th rowspan="2">職</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">備</th> </tr> <tr> <th>海</th> <th>水</th> <th>火</th> <th>職</th> <th>備</th> </tr> <tr> <td>輜 重 輪 卒</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>兵</td> <td>兵</td> <td>職</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	管	現	役	徴			計	看	職	計	備	海	水	火	職	備	輜 重 輪 卒				兵	兵	職				計																																																																																																																																																																																																																													<p>備考</p>
管	現				役	徴							計	看	職	計	備																																																																																																																																																																																																																																								
		海	水	火		職	備																																																																																																																																																																																																																																																		
輜 重 輪 卒				兵	兵	職				計																																																																																																																																																																																																																																															

リ郡區長ニ於テ
 其名簿ヲ作り府
 縣廳ニ差出シ府
 縣廳ヨリ之ヲ徵
 兵署ニ送ル可シ
 第九十三條 補充
 員ニシテ入營ヲ
 命セラレタル者
 其人營迄ノ扱ハ
 總テ現役當籤者
 入營前ノ扱ト異
 ナルコトナシ
 第九十四條 補充
 員ハ十日間ニ往
 復スルコト能ハ

サル地ニ出ルヲ
 許サス然レトモ
 已ムヲ得サル事
 故ヲ生シ其日限
 ヲ越エル地ニ出
 テンコトヲ欲ス
 ル者ハ事實并ニ
 往先ヲ詳記シ戶
 長郡區長ノ與書
 證印ヲ受ケ郡區
 駐在官ニ出願ス
 可シ
 第九十五條 補充
 員ニシテ現役ヲ
 志願スル者ハ本

徵兵検査日割表

類別	検査所		検査日數	壯丁人員	郡區名	發着月日
	某地	某地				
計	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何

第十二書式 徵兵検査表

明治		何	
身	尺	骨	體
度	寸	相	格
何	何	何	何
府(縣) 國郡(區)町(村)産 族及職業			
某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)			
(甥) 本人戸主ナレハ			
戸主ト記スヘシ			
何		某	

徵兵検査表

年	體	質	骨相		別相		検査官之印
			額	口	額	口	

産國ト現今ノ管轄府縣ノ異ナル者及ヒ寄留地ノ
 徵集ニ應スル者產地住地等ノ記載方ハ人別表ニ
 同シ
 第十三書式

徵兵抽籤巡回日割表

抽籤所	類別	抽籤日	日滞在	里程	行程	發着月日	鎮臺(營所)後備	
							軍司令官姓名	印
府(縣)徵兵署	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何

○改正徵兵事務條例書式

入ノ願書ニ親族
連署シ戸長郡區
長ノ與書證印ヲ
受ケ郡區駐在官
ニ願出ルトキハ
詮議ノ上當籤番
號ノ順序ニ拘ハ
ラス補充員徵集
同時之ヲ入營セ
シム可シ

第九十六條 補充
員身上ニ異動ヲ
生スルトキハ戸
主又ハ親族ノ者
ヨリ三月以内ニ

同	何月何日	何日	何里	何日	何月何日	何日	何地
							發
							著

七百六十六

第十四書式 籤簿 用紙府縣款名美濃野紙

何府縣現役(補充)步(騎)砲(工)
(輜重)兵(輜重輸卒)看護卒(籤簿)

第一番	姓	名
先入兵	同	同
第二番	同	同
入營延期	同	同

戸長ニ届出戸長
郡區長與書證印
シ郡區駐在官ヲ
經テ之ヲ府縣駐
在官ニ届出可シ

第九十七條 補充
員ニシテ甲府縣
ヨリ乙府縣ニ轉
籍又ハ全戸寄留
スル者ハ第八十
四條ノ例ニ據ル
可シ

第九十八條 補充
員ニシテ第八十
五條但書ニ當ル

第三番	志願兵	同
第四番	同	同
以下倣之		
計 何人		

○改正徵兵事務條例書式

七百六十七

第十五書式 番號割符

事故ヲ生シ徵集
猶豫ヲ出願スル
者ハ第八十六條
ノ手續ニ據リ主
務省ニ開申ス可
シ但主務省ニ於
テハ證議ノ上第
一豫備徵員ニ編
入ス可シ

第九十九條 第一
豫備徵員身上ニ
異動ヲ生スルト
キハ戶主又ハ親
族ノ者ヨリ三日
以内ニ戶長ニ屆

明
府(縣)國部(區)町(村)住族及職業
某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)
(附籍) 本人戶主ナレハ
戶主ト記スヘシ

治	何	何	何	何	何
年	何	鎮	何	何	何
月	何	兵種	何	何	何
日	何	番號	何	何	何
徵兵署	何	何	何	何	何

現役補充員申付候事

出戶長ハ第九十
六條ノ例ニ據リ
之ヲ處分スヘシ

第百條 第一豫備
徵員ニシテ十五
日間ニ往復スル
コト能ハサル地
ニ旅行セント欲
スル者ハ其往先
ヲ詳記シ戶長郡
區長ヲ經テ郡區
駐在官ニ届出テ
然ル後旅行ス可
シ但其届書ニハ
旅行中徵集ノ命

近衛兵ノ割符ハ現役ノ上ニ近衛ト記シ又海軍
兵ノ割符ハ海軍ト記スヘシ又一年志願兵ニ在
テハ一ヶ年現役申付候事ト記スヘシ

(編者曰裏面ハ白紙
ナレハ省略ス)

第十六書式 受領證書

受領證書
現役(補充)步(騎)(砲)(工)(輜)
重兵(輜)重輸卒(看護卒)

第何番 姓名
第何番 姓名
第何番 姓名

計何人

右當籤ニ付番號割符(番號割符并ニ籤札)御渡
相成正ニ致領收候速ニ本人共へ可相渡候也

アル片ハ直ニ之
ヲ通牒ス可キ者
ノ姓名住所ヲ記
入ス可シ

第百一條 徵兵令

第三十二條ニ據

リ第二豫備徵員

トナル者ハ其年

四月二十日ニ至

レハ別ニ命ナク

シテ第二豫備徵

員ニ編入セラレ

タル者ト心得可

シ

第二豫備徵員年

年月日
徵兵署
御中
府(縣)郡(區)抽籤總代人
姓名印
(編者日裏面ハ白
紙ナレハ省略ス)

第十七書式 除役名簿

用紙美濃紙

姓	名	某何男(養子) (兄(弟)伯(叔) (甥(不人戸主ナレハ 戸主ト記ス)	同	同	同	同	同	同	同
住	所	郡(區)町(村)	同	同	同	同	同	同	同
誕	生	年	月	日	同	同	同	同	同
族	業	士	族	農	平	民	工	同	同

齡滿三十三歳ト

ナル年ノ四月二

十日ニ至レハ別

ニ命ナクシテ國

民兵役ニ編入セ

ラレタル者ト心

得可シ

第百二條 補充員

服役年期ノ計算

ハ現役兵ト同シ

ク四月二十日ヨ

リ起算シ第一豫

備徵員服役年期

ノ計算ハ其編入

ス可キ年ノ四月

徵兵令第七條
及ハ第十六條
ニ當ル事項

疾病(欠損)

備考

某何男(養子)
(兄(弟)伯(叔)
(甥(不人戸主ナレハ
戸主ト記ス)

姓

何某

住

郡(區)町(村)

誕

生

族

士族商

徵兵令第七條
及ハ第十六條
ニ當ル事項

年月日宣告
重懲役十年

備考

編者日裏面ハ
レハ省略ス

○改正徵兵事務條例書式

二十日ヨリ起算
 可シ但第八十
 七條ニ當リ第一
 豫備徴員トナル
 者ハ其入營年ノ
 四月二十日ヨリ
 起算ス
 第十五章 一年
 志願兵
 第百三條 徴兵令
 第十一條ニ據リ
 一個年間現役ニ
 服センコトヲ志
 願スル者ハ毎年
 九月一日ヨリ同

除役名簿

何府縣

七百七十二

第十八書伯 其一 徴集猶豫名簿 用紙美濃紙

兵名	住所	生年月日	職業	備考
某何男(養子) (兄(弟二伯)(叔) 何(主人戸主) 何(主人戸主) 何(主人戸主)	何某	同日	平民 商士 族農 同	同 同
徴兵令第十七 條ニ當ル事項 戸主				父六十歳三月 嗣子

月十五日迄ニ其
 願書(第二十三
 書式)ヲ戸長ニ
 差出ス可シ戸長
 ハ之ニ與書證印
 シ郡區長ヲ經テ
 十月一日限り府
 縣廳ニ差出シ府
 縣廳ヨリ之ヲ徴
 兵署ニ送ル可シ
 第百四條 志願者
 ハ當分ノ内各自
 ノ志望ニ由リ步
 兵看護卒及ヒ看
 馬卒ノ内ニ就キ

備考	姓名	住所	生年月日	職業	備考
	某何男(養子) (兄(弟二伯)(叔) 何(主人戸主) 何(主人戸主) 何(主人戸主)	何某		族職 業士 族商	祖父六十五歳 承祖ノ孫
徴集猶豫名簿					
何府縣					新設戸身 ハ非引ノミ ナレハ省略 ス

○改正徴兵事務條例書式

七百七十二

第十八書式 其二

用紙美濃紙

其種類ヲ撰ヒ出
願スルコトヲ得
第百五條 食料被
服等ノ自辨金ハ
一名金壹百圓ニ
シテ其現品ハ官
ヨリ之ヲ支給ス
但自辨金ハ二月
一日迄ニ府縣廳
ヲ經テ領證ニ納
ム可シ
徵兵令第十一條
第二項ニ據リ若
干月ニシテ歸休
ヲ命シタル者ニ

備考	姓 名 <small>某何男(養子) (弟二伯)(叔) (男)戸主ト記スルベシ</small> 何 某	住 所 郡(區)町(村) 同	誕 生 年 月 日 同	族 職 業 平民 農士 族商 平民 工	備考 徵兵令第十八條第十九條第二十條第二項ニ當ル事項 年月日 少教正 年月日入校(國)陸海軍某校(團)生徒 官立某中學校ニ於テ何ヶ年課程ヲ卒業ル生徒
----	---	----------------------	-------------------	------------------------	---

ハ殘金ヲ返付ス可シ
第百六條 志願兵
入營前ノ扱ハ總
テ現役當籤者ト
異ナルコトナシ
入營後第八十五
條但書ニ當ル事
故ヲ生ゼシトキ
ハ第八十六條及
ヒ第八十七條ヲ
適用ス可シ
第百七條 歩兵志
願者ハ各軍管ニ
之ヲ纏メ別段ノ

備考	姓 名 <small>某何男(養子) (兄)(弟二伯)(叔) (男)戸主ト記スルベシ</small> 何 某	住 所 郡(區)町(村) 同	誕 生 年 月 日 同	族 職 業 士族 農	備考 徵兵令第十八條第十九條第二十條第二項ニ當ル事項 年月日決裁濟 某省奉職 編者曰裏面ハ索引ノミナレハ省略ス
----	--	----------------------	-------------------	---------------	---

第十九書式

先入兵不參名簿
用紙府縣欸名ノ美濃野紙

○改正徵兵事務條例書式

教育ヲ受ケシメ 看護卒看馬卒志 願者ハ各軍管ノ 其部ニ属シ教育 ヲ受ケシム可シ	第百八條 志願兵 現役一個年ヲ終 レハ六個年間豫 備役ニ服ス可シ	第百九條 志願兵 中品行方正勤務 勤勉ニシテ技藝 ニ熟達シ下士ノ 任ニ堪フ可キ者 ニハ其適任證書
十八年徵兵 某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔) (甥) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ	何村 平民農 十八年徵兵検査ノ節失踪 十九年全断二十年同断	何町 士族農 十九年徵兵検査ノ節逃亡 二十年同断
二十年徵兵	同	同

ヲ付與ス可シ 又教育上拔群ノ 結果ヲ得タル者 ハ豫備役下士ニ 任シ士官適任證 書ヲ付與ス可シ	第百十條 志願兵 検査所往復及ヒ 入營歸郷ノ旅費 ハ總テ自辨トス	第十六章 臨時 徵兵事務	第百十一條 戰時 若クハ車變ニ際 シ兵員ヲ要スル
二十年徵兵検査ノ節故 ナク検査ニ參會セス	同	同	同
以下倣之	計 何人	同	同
第二十書式 入營延期不參名簿 用紙府縣款名ノ美濃野紙	十八年徵兵 某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔) (甥)	何町 平民工 十八年入營ノ節病氣十九年徵兵 検査ノ節同断二十年同断	何 某 年月日生

○改正徵兵事務條例書式

トキハ左ニ掲ク
ル項目ノ順序ニ
從ヒ徵集ス可シ
一 徵兵令第四十
條（翌年回シ
ノ徵兵）ノ事
故止ミタル者
二 補充員
三 第一豫備徵員
四 徵兵令第十七
條（徵集猶豫
ノモノ）ニ當
リ徵集ヲ猶豫
セシ者
五 第二豫備徵員

十九年徵兵
同
何町 士族商
同
十九年入營ノ節病氣二十年 徵兵検査ノ節處刑中
同
以下倣之
計何人
(編者曰其面ハ非引 ノミナレハ省略ス)

第二十一書式 徵兵表

明治何年 何府(縣)徵兵表 其一

<p>第百十二條 豫備 徵員ハ年次ヲ逐 ヒ服役日尙淺キ 者ヨリ當籤番號 ノ順序ニ從ヒ之 ヲ徵集シ又徵兵 令第十七條（徵 集猶豫ノモノ） ニ當リ徵集ヲ猶 豫セシ者ハ項目 及ヒ當籤番號ノ 順序ニ從ヒ之ヲ 徵集ス</p> <p>第百十三條 第百 十一條第一項第</p>															
類別	郡區	二十歲壯丁總員												計	
		徵集人員			先入兵不參人員				徵集猶豫人員						除役人員
		現	近	鎮	衛		步		騎		砲		工		
兵	兵				兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
集	役													計	
幅重輸卒	幅重兵	工兵	砲兵	騎兵	步兵	工兵	砲兵	騎兵	步兵	工兵	砲兵	騎兵	步兵		
														計	

○改正徵兵事務條例書式

トス但郡區長郡
區駐在官ハ検査
所ニ出頭シ同所
ノ事務ヲ補助ス
可シ

第百十七條 身體
検査竣ルノ後府
縣駐在官ハ臨時
徵兵署ニ於テ府
知事縣令ト商議
シ徵兵令第十七
條（徵集猶豫ノ
者）ニ當ル者ハ
各項目ニ番號ヲ
分チ第二豫備徵

員ハ各年度ニ番
號ヲ分チ抽籤ヲ
施行ス可シ

第百十八條 一府
縣ノ臨時徵兵事
務全ク竣ルノ後
府縣駐在官ハ人
別表検査表ヲ照
檢シ兵種及口部
類ヲ分チ人別表
ハ臨時徵員明細
名簿トシ検査表
ハ臨時徵員検査
名簿トシ籤簿ト
共ニ營所後備軍

總計 計

考備 現役志願者ハ備考區畫中ニ兵種ヲ分チ其人員
ヲ記スヘシ

第二十一書式 徵兵表

明治何府(縣)徵兵表 其二

種別	動異丁壯		徵集人員	入營延期不參人員	先入兵不參人員	徵集猶豫人員	郡區			計
	徵集	不參					郡區			
	人員	人員					人員	人員	人員	

總除役人員 計

徵		現														集																										
兵	役	近			砲		工	砲		騎	步	工	砲	騎	步	輜	重	輸	卒	看	護	職	水	火	職	海軍																
		衛	砲	兵	砲	兵		兵	兵																		兵	兵	兵	兵	兵	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒
		人員	人員	人員	人員	人員		人員	人員																		人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員

○改正徵兵事務條例書式

司令官ニ差出シ
 該官ハ之ヲ一師
 管ニ取纏メ兵種
 ヲ分チ人員表ヲ
 製シ名簿ト共ニ
 鎮臺後備軍司令
 官ヲ經テ鎮臺司
 令官ニ差出シ鎮
 臺司令官ハ其軍
 管人員表ヲ製シ
 之ヲ陸軍省ニ開
 申ス可シ
 第百十九條 臨時
 徵兵事務ハ本章
 ニ掲クル諸條ヲ

入營 延期 公權 停止 中	人員														
	充														
	近衛		鎮		臺		海軍		計		砲		騎		步
	砲	騎	步	工	砲	騎	步	工	砲	騎	步	工	砲	騎	步

除クノ外定期徵
 兵事務ニ準シ便
 宜處分ス可シ
 第百二十條 國民
 兵ヲ徵集スルノ
 方法ハ別ニ之ヲ
 定ム
 第十七章 雜則
 第百二十一條 徵
 兵令第十條（年
 齡二十歳ニ滿タ
 スト雖モ滿十七
 歳以上ノ者ハ現
 彼ヲ志願スルヲ
 得）ニ據リ現

總計	除役		疾病		人員		猶豫		徵集		人員		先入		兵不		參人	
	計	者	重罪ノ刑ニ處	欠	疾	病	身	幹	短	尺	計	計	計	計	計	計	計	計

役ヲ志願スルト
 事ハ前條ノ手續
 ヲ以テ徵兵検査
 所ニ出願ス可シ
 但旅費ハ前條ニ
 同シ

第二百二十三條 徵

兵令第十一條一
 年 齡 十 七 歲 以 上
 滿 二 十 七 歲 以 下
 ニシテ官立府縣
 立學校ノ卒業證
 書ヲ所持シ服役
 中食料被服等ノ
 費用ヲ自辨スル

考備

徵兵相當者ニテ現役志願ノ者ハ本表中現役志願者ノ區畫ニ記ス可カラス

第二十一書式

徵兵表

石	水	縫	靴	醫	商	農	職業	郡區	明治	何府(縣)	徵兵表	其四
工	工	工	工						何年			

者ハ願ニヨリ一
 個年間陸軍現役
 ニ服セシム)及
 二第十八條第二
 項(官立府縣立
 學校ノ卒業證書
 ヲ所持スル者ニ
 シテ官立公立學
 校教員タル者)
 ノ卒業證書ハ學
 期二個年以上ノ
 學校ニ於テ二個
 年以上ノ課程ヲ
 卒リタル證書ニ
 限

竹	船	車	鍛	鞴	桶	泥	馬具	屋根	茅屋根	木挽	指物	建具	穴藏	棒削	鋤	杣
工	工	工	工	工	工	工	職	職	職	職	職	職	職	職	職	職

○改正徵兵事務條例書式

第百二十四條 徴兵令第十七條ニ當ル者ハ徴集スルトキハ其項目ノ順序ニ從フ可シ

第百二十五條 徴兵令第十七條第一項（兄弟全時ニ徴集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人）及ヒ第二項（現役中死没又ハ公務ノ爲

考備	計	鑛夫	獵師	舟夫	漁夫

○此表ハ檢査合格者ノ職業ヲ記スハシ

○表中掲ル所ノ科目ハ所要ノ職業ヲ舉ルト雖モ實際ニ就キ之ヲ減省シ又此科目ノ外ニ職業アルトキハ更ニ之ヲ増加スヘシ

第二十一書式 徴兵表

明治 何府(縣)徴兵表 其五

マ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人ノ兄弟ハ同戶籍中ノ實兄弟ニ限ル

第百二十六條 徴兵令第十七條第二項ノ兄弟同時徴集ニ當リ檢査ノ上共ニ合格スルトキハ情願ニ據リ一人ヲ猶豫ス可シ

前項ノ者他府縣

考備	總計	郡區	尺	五尺五寸以上	五尺四寸以上	五尺三寸以上	五尺二寸以上	五尺一寸以上	五尺以上	四尺九寸以上	計

（編者曰裏面ハ白紙ナレハ省略ス）

第二十二書式 國民兵人員表 用紙美濃紙

郡區	年齡	明治何年	國民兵人員表	主任 官姓名印
		十二月一		
	十七歲			
	十八歲			
	十九歲			
	計			

○改正徴兵事務條例書式

ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ン
 下欲スル中ハ各自届出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戸長ニ願出本籍戸長ニ届出可シ
 第百二十七條 武官并ニ陸海軍生徒ノ兄弟ハ徵兵令第十七條第一項第二項(前第百二十五條ノ分註ノ如シ)ニ據

何郡(區)	何人	何人	何人	何人	何人
計	何人	何人	何人	何人	何人

第二十三書式 一年志願兵願書

府(縣)郡(區)町(村)番地住 族及職業 姓名
 年月日生
 右私或ハ私何男(養嗣子)(承祖孫等)ニ候處徵兵令第十一條ニ據リ食料被服等ノ費用トシテ金壹百圓上納可仕候間御檢査ノ上一箇年間歩兵

ルノ限ニ在ラス
 第百二十八條 豫備兵後備兵召集中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄弟徵集ニ當ルトキハ徵兵令第十七條第二項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ
 第百二十九條 徵兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ

(看護卒)(看馬卒)ノ現役ニ御徵集相成度別紙某學校卒業證書并ニ學業履歷書相添此段奉願候也

年月日 府(縣)郡(區)町(村)番地住 族及職業 戶主 姓名 印
 徵兵 署 御中

前書之通相違無之候也 戶長 姓名 印

第二十四書式 志願兵願書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

兄或ハ弟一人ハ
 徴集ヲ猶豫スヘ
 シト雖モ現役中
 ノ者其年四月現
 役満期或ハ脱走
 中又ハ歸營賞勳
 中ナルトキハ徴
 集ニ應ス可シ
 第三百十條 徴兵
 令第十七條(徴
 集猶豫ノ)第
 十八條(事故ノ
 存スル間徴集ヲ
 猶豫スル)第
 十九條(官立府

族及職業
 姓名
 年月日生
 右私或ハ私何男(養嗣子)承祖ノ孫等(徴兵令第
 十條ニ據リ現役志願仕候間御検査被成下度尤
 御採用ノ上ハ定規ノ服役年期中家事ノ故障ヲ
 以テ一切苦情申立問敷候此段奉願候也
 府(縣)郡(區)町(村)番地住
 年月日
 族及職業
 戶主 姓名 名 印
 徴兵 署
 御中

前書之通相違無之候也
 年月日
 戶長 姓名 名 印

縣立學校ニ於テ
 修業一個年以上
 ノ課程ヲ終リタ
 ル生徒ハ六ヶ年
 以内徴集ヲ猶豫
 ス)及ヒ第二十
 一條(官省院廳
 府縣ニ於テ餘人
 フ以テ代フ可カ
 ラサル技術ノ職
 ヲ奉スル者ハ太
 政官ノ決裁ニ依
 テ徴集ヲ猶豫ス
)ニ當リタル者
 七個年間ニ其資

○第拾八編 徴兵安心談
 往昔唐土ニ義僕アリ幼年ヨリ頗ル才智アリ能其
 主家ニ格勤セリ其歳十八ニシテ或時主人妻子ト
 俱ニ他ニ一宿セシニ其夜強盜數人垣ヲ碎キ戸ヲ
 壞チ兇器ヲ携ヘ奮勇シテ來リタルニ婢僕ハ恐懼
 シテ悉ク奔竄セリ然ルニ義僕ハ主家ノ内ニ盲瞽
 ノ老翁アリテ寢室ニ臥シタルニ因テ白刃ヲ凌キ
 老主ノ側ニ至リ居ルニ賊ニ揮撃ヒラレテ幾ト死
 セントシタリ賊去テ後婢僕歸リ來リ義僕ニ爾ハ

格ヲ失ヒタルト
 キハ徵集スト雖
 毛更ニ徵兵令第
 十七條(徵集猶
 豫項目中ノ者)
 及ヒ第十八條第
 七項(學術修業
 ノ爲メ外國ニ寄
 留スル者)ニ當
 ル者并ニ陸海軍
 生徒トナル者ハ
 徵集猶豫ニ屬ス
 可シ
 第三百一十一條 各
 自届出後即チ九

ヒトリシツク
 獨賊ヲ懼レサリシヤト問ヘリ義僕ノ曰ク人ノ禽
 獸ニ異ル故ハ仁義ノ心ヲ存スルヲ以テナリ鄰村
 ト云ヘル若急アルハ尙往テ救フヘケレハ主人
 ノ事ニ於テヲヤ況ヤ我一時遁レテ危難ヲ免カレ
 テ萬一主人ヲ傷害ニ係シメタラハ恩ヲ忘レ義ヲ
 敗リ何ノ面目アリテ世ニ身ヲ立ンヤト然シテ曉
 天ヲ待チ其村ノ正里ニ至リ夜來ノ事ヲ告ケ且云
 ヤノコヲ語ル正里感慨シテ許諾シ其日村衆ヲ會
 シテ曰ク近時屢賊ノ爲ニ火災アリ又屢羣盜アリ

月十六日以後ニ
 於テ徵兵令第十
 八條第一項(教
 正ノ職ニアル者
)第二項(官立府
 縣立學校ノ卒業
 證書ヲ所持スル
 者ニシテ官立公
 立學校教員タル
 者)第三項(官立
 大學校及ヒ之ニ
 準スル官立學校
 本科生徒)第四
 項(陸海軍生徒
 海軍工夫)陸海

爲ニ防禦ノ備ナクシハアルヘカラスト義僕ノ謀
 リシ如ク村中ノ男子強壯ナル者ヲ撰ミ毎夜交代
 シテ警衛ニ備ヘンコヲ議セリ我國ノ自衆皆點頭同
 意シ即其夜ヨリ其事ヲ行フテ終ニ盜難ヲ免レ得
 マリ然ルニ同村ニ頑父アリ己ノ子ヲ其役ニ出ス
 コヲ欲セスシテ我子警衛ニ出レハ夜中安眠セス
 衛生ヲ害シ晝間ハ業務ヲ惰タルヘシト云ヒ頑父
 ノ妻ハ怯懦ノ性質ニシテ又我兒ハ幼ヨリ柔弱ニ
 養育セシ者ナレハ若強盜襲ヒ來ルハ必ス殺傷
 ンダテ

軍生徒ヲ除ク」
 第十九條（前第
 百三十條ノ註ノ
 如シ）及ヒ第二
 十一條（同第百
 三十條ノ註ノ如
 シ）ニ當ルモ徵
 集猶豫ノ限ニ在
 ラスト雖モ翌年
 四月十一日以後
 九月十五日迄ニ
 該條項ノ名稱ヲ
 得タル者ハ徵集
 猶豫ニ屬ス可シ
 第百三十二條 徵

ヲ受クヘシト云ヒ共ニ種々ノ詐偽ヲ盡シ終ニ一
 夜モ其子ヲ警備ニ出サ、リキ幸ニ村人仁慈ニシ
 テ之ヲ宥タリト雖モ彼等ハ愚痴ニシテ自家ヲ保
 護スヘキノ道理ヲ辨セス詐偽ヲ作為シテ道德ニ
 背キタルヲ以テ村民皆頑痴生ト號シ一人モ之ト
 交ル者ナシ。然ラハ大ニ悔悟ノ終ニ家ヲ舉テ他邦
 へ移リタリトアリ」此レニ由リ觀ルルハ人若家
 財ヲ保存シ家族ヲ安寧ナラシメントセハ此村ノ
 如クニシテ護衛セスンハアルヘカラス抑古今ヲ

兵令第十八條第
 三項（前第百三
 十一條ノ註ノ如
 シ）ノ生徒ニシ
 テ二個年以上ノ
 課程ヲ卒リタル
 者ハ同令第三十
 一條（補充員ニ
 シテ其期限内徵
 集ノ命ナキ者）
 ニ據リ第一豫備
 徵員ニ編入ス可
 キヲ以テ徵兵檢
 査時限ニ至レハ
 郡區長ヨリ其學

トハクニナイガイ
 問ス國内外ヲ論セス凡ソ天地ノ間ニ生ヲ稟タル
 者ハ皆其子ヲ愛憐セサル者ハナシ。然レモ古來主
 君或ハ父母ノ爲ニハ粉骨碎身シテ或ハ子ヲ死地
 ニ陷レ或ハ屍ヲ戰場ニ曝シタル等ノ者ハ少シト
 セス是レ身ヲ殺シテ仁ト成ル輩ニシテ義僕ノ所
 謂ル禽獸ト同カラスト謂フ道理ニ異ラサルナリ」
 謹テ惟ルニ明治五年往古ノ軍制ニ復セラレテ徵
 兵令ヲ設ケ同十二年御改正ニナリ今又御改正セ
 ラレタルハ漸次ニ兵員ヲ増加シ此國ヲ警衛シテ

○徵兵安心談

校ニ通牒シ最寄
ノ徴兵検査所ニ
出頭セシメ身體
ノ検査ヲ受ケシ
ム可シ

第百三十三條 徴
兵令第十八條第
三項(前條三十
一條ノ註ノ如シ
一ニ掲ケタル官
立大學校ニ雖ス
ル官立學校ハ左
ノ如シ

一工部大學校
二農商務省騎場

萬民ヲ富士山ノ安キニ居ラシメ賜ハン所ナリ假
令人々家業繁昌シテ數萬金ヲ貯蓄スルトモ萬一
國家ニ事有時之ヲ能防ク者ナケレハ各勉強勞
カシテ得タル金穀家屋ハ一時ニ灰燼トナルノミ
ナラス父母凍餓シ兄弟妻子離散スルコト計リ難シ
因テ各心カヲ盡シ國家ヲ護衛セスンハアルヘカ
ラス。此道理ハ予カ註譯セシ改正徴兵令譯解ヲ見
ヘシ若人ノ父タル者此道理ヲ明辨セスシテ兵役
ニ出スコヲ拒ミ種々ノ詐偽ヲ作為スルトハ此頑

札幌農學校
三司法省法學校
第百三十四條 徴
兵令第十八條第
一項第二項第三
項第四項(第一
項第二項第三項
第四項ニ前第卅
一條ノ註ノ如シ
(第十九條(前第
三十一條ノ註ノ
如シ)第二十條
(豫備後備ニ復
習點呼ノ爲メ召
集ヲ免スルコト)

痴生ト同ク外邦へ移轉スヘキノ人ナリ若親子共
ニ軍士トナルコトハ欲スレ兵卒トナルコト好マ
ストアル人ハ陸軍教導團中各種ノ學校へ入校シ
卒業シテ直ニ判任官トナリ又陸軍士官學校へ入
校シ卒業シテ奏任官トナルヘシ。又軍人トナリ立
身スルコトハ好マサレ出征セサル方ヲ欲ストア
ラハ。教導團其他陸軍官衙ニ種々ノ生徒アレハ是
へ入校スヘシ。又國家ノ爲ニ金錢ヲ抛チ心カヲ盡
スコトハ厭サレ兵武官トナリテ戰場ニ出ルコトハ嫌

「第五項ヲ除ク」
及ヒ第二十一條
(前第三百三十條
ノ註ノ如シ)ニ
當ル者其事故止
ミタルトキハ學
校長若クハ所屬
長ヨリ木人所管
ノ府縣廳ニ通牒
ス可シ

第三百三十五條 徵
兵令第十九條ニ
掲クル修業一個
年以上ノ課程ヲ
卒リタル生徒ト

トアラハ電信局ノ技術生徒トナリ又官立府縣立
中學校ニ入校シ卒業證書ヲ得テ滿二十七歳マテ
官立公立ノ小學校教員トナルヘシ。其事故ノ存ス
ル間ハ徵集ヲ猶豫セラル、ノ明文アリ。又官立府
縣立醫學校ヲ卒業シテ開業免狀ヲ得テ直ニ陸軍
軍醫講習生トナルコトヲ志願スヘシ。此ヲ卒業スレ
ハ委任官トナルナリ。是ニ絲テ是ヲ察スレハ男子
タル者ハ癩疾ハイシツ或ハ不具等ニアラサル者ハ或ハ武
藝或ハ文學ヲ以テカヲ國家ニ盡スヘキコト今日ニ

ハ該校ニ於テ其
課程ヲ卒リタル
者ノミニ限ラス
他ノ學校ヨリ入
學シ一個年以上
ノ課程ヲ卒リタ
ル生徒ニ編入セ
ラレタル者亦該
條ニ據リ徵集猶
豫ニ屬ス可シ

第三百三十六條 官
吏(判任以上)及
ヒ戶長ハ徵兵令
第二十條第一項
(官吏判任以上)

至リテハ判然決斷セサル可カラサルナリ」因テ
次ニ官達書類ヲ編輯シ猶其達書ヲ摘要シテ表面
ニ造リ通覽ニ便ナラシム。父兄タル者ハ此書ヲ熟
覽シテ其子弟ヲ早く小學校ニ入テ中高等ノ學科
ヲ卒業セシメ而シテ此中何ノ生徒カ召募ヲ俟テ
入校セシメハ可ナラン。斯ノ如ニシテ徵兵猶豫ヲ
蒙ルルアライ仰テ天ニ吐スハカ俯テ人ニ耻スハヂ愛國忠君ノ
一男子ナリト爾云フ

次ニ掲クル表面ノ解

此表面ハ陸軍省内軍人軍屬ノ各種アルコト及其他

及ヒ戸長ニ據
リ召集ヲ猶豫ス
ト雖モ准官吏ハ
該條項ニ據リ召
集ヲ猶豫スルノ
限ニ在ラス
第百三十七條 附
籍戸主及ヒ其嗣
子或ハ承祖ノ孫
ハ徵兵令第二十
二條第一項(附
籍戸主及ヒ附籍
戸主ノ嗣子或ハ
承祖ノ孫)ニ據
リ徵集スト雖モ

ノ學校ヲ一覽シ易キ爲ニ設クルモノナリ

第一表面横行

第一ハ生徒ヲ所轄スル官廨ノ名稱

第二ハ軍人軍屬トナルヘキ生徒ノ名稱

第三第四第五ハ入校スル時ノ年齢身長體質

第六第七第八ハ入校ノ時試験ヲ受ル科目

第二表面横行

第一第二ハ官廨ト生徒ノ名稱

第三ハ試験済入校迄ノ通學

其戸主徵兵各自
届出期限即チ九
月十五日以前ニ
一戸ヲ設立スル
トキハ徵兵令第
十七條第三項(戸
主年齢六十歳
以上ノ者ノ嗣子
又ハ承祖ノ孫)
及ヒ第五項(戸
主)ニ據リ徵集
猶豫ニ属ス可シ
但分家シ又ハ絶
家若クハ廢家ヲ
再興シタル戸主

但空欠ノ所ハ直ニ入校ノ科ナリ

第四ハ修業中ノ年月

但空欠ノ所ハ卒業ノ早キ科ナリ

第五ハ各種ノ學校内ニ於テ修業寄宿ノ科

但私宿ハ校外ヨリ通學或ハ通勤ナリ

第六被服トハ帽衣袴襪絆靴其他一切官給ノ科

第七第八ハ食料手當金等ヲ下賜ノコ

第九ハ卒業シテハ何トナルヘキコ

第十ハ修業中品行方正技藝熟達ノ者ハ拔擢セラ

戶山體操卒同	本部同	參謀電信用隊	本部軍醫講習生	校學官士				團導				勸導	官生徒	第一表					
				幼年生徒	工兵	砲兵	騎兵	步兵	喇叭卒	軍樂隊	輜重兵			工兵	砲兵	騎兵	步兵	年齡	身長
同	同	同	同	至十七	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除
同	同	同	同	至十四	同	同	同	至廿三	自廿三	自廿五	自廿五	自廿八	至廿五	自十八	五尺以上	強壯	壯	日本歷史通俗文	加減乘除

ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戸ヲ設立スルモ本條ノ限ニ在ラス

第百三十八條 徵兵令第二十二條 第四項(分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其

ルノ科
第十一ハ卒業後現役ヲ勤ル年限
此横行ハ縦行ニ屬スルモノナレハ今致導團ヘ志願スルハ何歳ヨリ又其他試験等ハ何々ナリト思ヘハ歩騎其他年齢自十八 身長五尺以上 體質強壯共入學試験ハ讀書 日本歷史通俗文 算術 加減 乘除 ナリト讀ヘシ次ニ掲ル第三表面モ同様ナリ

此表面中士官學校生徒ト軍樂隊トハ無妻ノ者ナラテハ入校ヲ許サレスト知ヘシ

砲兵本廠			軍馬局		學校	戸山	本部	參謀	軍醫	士官學校				導團				官生				
鑄工	木工	火工	蹄鉄	調馬	監的	體操	同建築	軍電信	軍講習	幼年	工兵	砲兵	騎兵	步兵	喇叭	軍樂	輜重	工兵	砲兵	騎兵	步兵	第一表
同	同	至自	至自	同	至自	同	至自	至自	三十以下	至自	同	同	同	至自	至自	至自	同	同	同	同	至自	入學生徒資格
		十九五	廿八五	五尺以上	廿七八	同	同	五尺以上	科術科	同	同	同	同	五尺以上	廿六三	廿五三	同	右	右	右	五尺以上	身長
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	強壯	同	同	同	同	同	同	壯	體質
			交復	同	同	讀	同	交復	學解剖	同	同	同	同	壯	讀	ナ	同	同	同	同	壯	讀書
同	同	同	同	同	同	同	同	同	生理藥劑	同	同	同	同	壯	書作	同	同	同	同	同	壯	作文
同	同	同	同	同	同	同	同	同	內科	同	同	同	同	壯	算術	同	同	同	同	同	壯	算術
			加減	同	同	算術		加減	外科		同	同	同	壯							壯	

八百六七ノ間

第百三十八條 徵
 兵令第二十二條
 第四項(分家シ
 又ハ絶家若クハ
 廢家ヲ再興シタ
 ル戸主及ヒ其戸
 主ノ嗣子或ハ承
 祖ノ孫(ノ嗣子
 或ハ承祖ノ孫ハ
 徵集スト雖モ其

此横行ハ縦行ニ屬スルモノナレハ今致導團ヘ志
 ヨリトホリタテントホリツク

願スルハ何歳ヨリ又其他試験等ハ何々ナリト思
 へハ歩騎其他年齡自十八 身長五尺以上 體質強壯其入學
 試験ハ讀書日本歴史 通俗往復ノ文 算術加減 乘除 ナリト讀へ
 シ次ニ掲ル第三表面モ同様ナリ

此表面中士官學校生徒ト軍樂隊トハ無妻ノ
 者ナラテハ入校ヲ許サレスト知ヘシ

第二表

現役服務中

砲兵本廠			軍馬局		學校	戶山	本部	參謀	軍醫本部	士官學校					導 團			教		官 生 徒			
鑄工	木工	火工	蹄工	調馬卒	監的卒	體操卒	同建築卒	軍用電信隊	軍醫講習生	幼年生徒	工兵	砲兵	騎兵	步兵	喇叭卒	軍樂隊	輜重兵	工兵	砲兵	騎兵	步兵		
同	同	同	同	同	同	一週		五月							一週							通學	
至四年	自三年		自一年				十二月	五月		三年	同	五年	同	三年	同	十八ヶ月	十六ヶ月	同	二十ヶ月	同	十六ヶ月	修業	
同	同	同	在校	同	同	時宜	同	私宿	同	同	同	同	同	在校	私宿	同	同	同	同	同	同	同	在校
同	同	同	同	同	同	同	同	官給	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	官給
同	同	同	同	同	同	同	同	官給	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	官給
同	同	同	同	同	同	同	同	下賜	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	下賜
			同	同	同	同	同	二等	三等	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	下士	同	同	同	同	下士							下士								同
同	同	同	同	同	同	同	同	七年		シ	ル	可	者	ナ	妻	子	七	同	同	同	同	同	五年

官立		官立		電信局衛生		府立師範學校		府立中學校		官立中學校		三表
校藥	官立	校醫	官立	衛生	電信	校學範師立府		校學中立府		校學中立官		入學
上同	上同	上同	上同	上同	上同	時ノ募召ハ校入		時ハ臨		例外		入學生徒資格
卒業以上ノ學力ヲ有シテ年齡十八歳以上トス	品行端正、體質強壯、初等中學科卒業以上ノ學力ヲ有シテ年齡十八歳以上トス	品行端正、體質強健、初等中學科卒業以上ノ學力ヲ有シテ年齡十八歳以上トス	品行端正、體質強壯、初等中學科卒業以上ノ學力ヲ有シテ年齡十八歳以上トス	體質強壯、年齡十五歳以下	體質強壯、年齡十五歳以下	在校中家事ニ關係ナク、且品行端正、體質強壯、年齡十七歳以上ニシテ、小學中等科卒業以上ノ學力アル者ナルヘシ		品行端正、體質強壯、年齡十二歳以上ニシテ、小學中等科卒業スヘキ學力アルモノ		品行端正、身體健康、小學中等科ノ學業ヲ卒業スヘキ學力アルモノ		入學試驗科目
和漢文 算術 地理學	和漢文、算術、代數、幾何、物理學、化學、動物學、植物學	和漢文、算術、代數、幾何、物理學、化學、動物學、植物學	和漢文、算術、代數、幾何、物理學、化學、動物學、植物學	和漢文、讀法、筆蹟、作文、和文、(英佛)譯(英佛)文和譯	和漢文、讀法、筆蹟、作文、和文、(英佛)譯(英佛)文和譯	講讀、國史略、十八史略、物理階梯、日本地誌略、作文、近體文、手簡文、算術、珠算、加減、乘除、筆算、記數法、ヨリ分數方マテ、習字、楷、行、草		講讀、十八史略(作文)、近體文、手簡文等(筆算)、記數方ヨリ、比例マテ(習字)、楷、行、草(地理)小學地誌一、二(歷史)國史攬要		講讀、十八史略(作文)、近體文、手簡文等(筆算)、記數方ヨリ、比例マテ(習字)、楷、行、草、物理、博物、以上學科目ヲ平均シテ六十點以上ノ者ハ入學ヲ許ス		修業學資
三年卒業以上	修業四年以上	修業四年以上	修業四年以上	修業一年	修業一年	初等科一年、中等科二年、高等科三年、寄宿		初等科一年、中等科二年、高等科三年、寄宿		初等科一年、中等科二年、高等科三年、寄宿		修業學資

戸主分家又ハ絶
 家廢家再興後廢
 疾不具等トナリ
 一家ノ生計ヲ營
 ムコト能ハサル
 トキ又ハ重罪ノ
 刑ニ處セラレタ
 ルトキハ徵集猶
 豫ニ屬ス可シ
 第三百二十九條 徵
 兵令第二十二條
 第二項（癡疾又
 ハ不具等ニシテ
 一家ノ生計ヲ營
 ムコト能ハサルニ

○陸軍教導團入學手續

明治十六年陸軍教導團各兵科
生徒入學檢査格例志願者心得

明治十六年陸軍教導團各兵科生徒入學檢査格
例

第一條 檢査^{シテ}分テ四則トス

第一則 年齢

第二則 身体

第三則 讀書作文

第四則 算學

第二條 第一則各兵科生徒ハ滿十八年以上廿五
年以下喇^ハ^キ生徒ハ滿十六年以上廿三年以下
タルヘシ

非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタニ非スシテル嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ前嗣子承祖ノ孫若クハ相續人(全戸籍中ノ者)癡疾又ハ

但年齡ヲ算スルハ來ル明治十七年一月ヲ以テ期トス

第三條 第二則ノ檢査^{ケンサ}ハ砲兵科^{カホツ}、身長五尺二寸以上歩騎工輜重兵科並ニ喇叭生徒^{フエ}ハ同五尺以上體質^{カヲ}強壯^{シヤツ}ニシテ喇叭生徒齒列齊密^{フナ}ハ^{ロツソ}ノ者

第四條 第三則ノ檢査ハ其科目^{カヲ}ヲ分テ二トス
其一 讀書日本歴史地誌ノ類

其二 作文通俗往復文^{テツギ}ノ類
第五條 第四則ノ檢査ハ左ノ如シ

陸軍教導團各兵科生徒入學志願者心得
第一條 今般召募^{ソウボ}ハ^{ソツ}スル處ノ教導團生徒ハ陸

不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ
第四百十條 徵兵令第二十二條第二項(前第三百十九條ノ如シ)ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項(第二

軍教導團條例第一章第四條ニ據リ陸軍部内及ヒ府縣ノ華士族平民中歩騎砲工兵科並ニ諸兵喇叭生徒入學志願ノ者^{妻子ナキ}ニ限ル檢査^{ケンサ}ノ上之ヲ採用^{トクモ}ス

第二條 此生徒ハ志願兵ト爲シ入學ノ日ヨリ常備兵籍ニ編入^{クニ}シ陸軍一定ノ規則ヲ奉セシムルヲ以テ其入學ノ日決シテ他志^{ホカ}コ^ロナク陸軍ニ從事^{ツカ}スルノ誓約^{チカヒ}ヲナサシム故ニ入學ノ後ハ自己^{コノ}ノ情願^{ケガ}ヲ以テ退學^{キヤメ}スルヲ許サス然レモ病患^{ビキ}ニテ兵役ニ堪ヘ難キモノハ軍醫ノ診斷^{サツ}ニ依リ之ヲ處分ス又學術不勉強^{カクモ}品行不正^{シヤチ}等ニシテ成業^{ケキア}ノ目的^{ミヨ}ナキ者其陸軍部内ヨリスル者ハ舊所管ニ復^カハ

○陸軍教導團入學手續

項第三項第四項
ニ當ル嗣子或ハ
承祖ノ孫ニシテ
戶主癯疾又ハ不
具等ニシテ一家
ノ生計ヲ營ムコ
能ハサルニ非ス
或ハ重罪ノ刑ニ
處セラレタルニ
非スシテ戶主ヲ
罷メ其後ヲ繼キ
タル戶主ニ據
リ戶主トナリタ
ル者及ヒ此第七
項(年齡六十歲

シ華士族平民ヨリスル者ハ退學セシメテ鎮
臺諸隊ニ送附^{オケリ}シ定期^{マダ}ノ服役年限^{ムトム}ヲ帶
ハシム

第二條 此生徒ハ下士ニ要用^{ヨリ}ナル高等ノ學術
ヲ教授スルヲ以テ修業期限^{アイコ}歩騎兵科八十
六ヶ月。砲工兵科ハ二十ヶ月トス而シテ修業^{コイ}
中ハ一切歸省^{キヨ}休暇^{ヤス}ヲ許サス

第四條 生徒修業中ハ被服^{帽衣袴襪}食料諸器
械^{トシ}等一切官給^シトシ且若干ノ手當金ヲ給ス

第五條 生徒卒業ノ上ハ下士ニ任ス而シテ其服
役期限ハ修業ノ時日ヲ除キ任官ノ日ヨリ滿十
二年トス而シテ其七ヶ年ハ常備^{現役五年ト}
服シ後五ヶ年ハ後備役ニ服セシム而シテ常備^{豫備役二年}

未滿ノ者癯疾又
ハ不具等ニシテ

一家ノ生計ヲ營
ムコト能ハサル
ニアラス又ハ重
罪ノ刑ニ處セラ
レタルニ非スシ
テ戶主ヲ罷メ其
跡ヲ繼キタル戶
主ノ戶主ハ徵
集スト雖モ其徵
集ニ應ス可キ年
ノ一月迄ニ前戶
主(全戶籍中ノ
者)已ニ六十歲

現役滿期ノ後尙ホ現役ヲ希望^ムスル者ハ詮議
ノ上之ヲ許スコアリ

第六條 陸軍部内ノ志願者ハ各其所管ニ出願シ
華士族平民中ヨリ志願ノ者ハ第一號第二號第
三號書式ニ照準^テシ願書。履歷書。戶籍明細書
等正副二通宛本籍又ハ寄留地ノ府縣廳へ差出
ス可シ

第七條 在東京陸軍部内並ニ華士族平民中ヨリ
入學志願者ノ検査^{ベテ}ハ教導團ニ於テ之ヲ爲シ
其他ハ鎮臺營所或ハ府縣下ニ検査官ヲ派出^{ダシ}
シテ之ヲ爲ス然レモ志願者ノ多寡^{オホクナイ}ニ依リ
甲地志願者ヲ乙地ニ集メ検査スルコアルヘシ
第八條 陸軍部内甲地志願者乙地ニ集メ検査ス

ニ至ルカ又各自
届出ヲ爲ス年ノ
九月十五日迄ニ
癩疾又ハ不具等
トナリ一家ノ生
計ヲ營ムコト能
ハサル者ニ齊シ
キトキ又ハ重罪
ノ刑ニ處セラレ
タルトキハ徵集
猶豫ニ屬ス可シ
第百四十一條 徵
兵令第十七條第
三項(戶主年齡
滿六十歲以上ノ

ルルハ往復旅費^{ユキカヘリ}並ニ滞在^{リツ}日當ハ給與
概則第十一章第十八條ニ依リ旅費日當金三拾
錢滞在日當金貳拾八錢ヲ支給^マス而シテ華士族
平民中ヨリ志願ノ者検査場往復^{ヘリ}旅費^{ロギ}並
ニ滞留日當ハ検査合格。不合格ニ拘ハラス其
里程^リニ應シ左ノ金額ヲ検査官ヨリ直ニ本人
ニ支給ス故ニ出頭片道ノ旅費ハ一時自辨^シ
居住地ノ郡(區)長或ハ戶長ノ里程證書ヲ持參
シ之ヲ受クヘシ

往復旅費 一日十里詰金三拾錢

但十里以上ノ端里^マ數一里以上六里未
滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス。近方
片道六里以上十一里未滿ハ日當金三拾

者ノ嗣子或ハ承
祖ノ孫)第二十
二條第三項(年
齡六十歲未滿ノ
戶主癩疾又ハ不
具等ニシテ一家
ノ生計ヲ營ムコ
ト能ハサルニ非ス
或ハ重罪ノ刑ニ
處セラレタルニ
非スシテ戶主ヲ
罷^シメ年齡六十歲
以上ノ者ニシテ
其跡ヲ繼キタル
戶主ノ嗣子或ハ

錢三里以上六里未滿ハ其半額三里未滿
ハ給セス若シ一泊^{ヒト}スルルハ三里以
上ハ日當金額ヲ給シ三里未滿ハ旅籠^ハ
料金貳拾錢ヲ給ス

滞留日當 一日金貳拾八錢

第九條 検査場開設ノ地並ニ検査時日等ハ派出
^ラ検査官ヨリ直ニ鎮臺營所等及ヒ府縣廳或ハ
郡(區)役所へ通達ス可シ

第十條 華士族平民中ヨリ志願ノ者ハ必ス検査
時日ニ先チ指示^ツスル地ノ郡(區)役所ニ出頭
止宿等詳細届ケ出ツ可シ郡(區)役所ニ於テハ
右書類取纏メ置キ検査官到着ノ節差出スヘシ
第十一條 検査時日ニ際シ志願者中病氣又ハ事

承祖ノ孫)及ヒ
 第七項(前第百
 四十條ノ註ノ如
 シ)ニ掲クル六
 十歳又同令第二
 十二條第五項一
 嗣子承祖ノ孫失
 踪ノ五ヶ年ヲ經
 サル者ノ跡ニ定
 メタル嗣子承祖
 ノ孫)及ヒ第九
 項(戶主失踪シ
 テ五個年ヲ經サ
 ル者ノ跡ヲ繼キ
 タル戸主)ニ掲

故^{カサツ}等ニ依リ當日出場ヲ缺クモノアルモ之
 カ爲メ時日ヲ遷延^ズシ更ニ検査場ヲ開クコナ
 シ
 但華士族平民中ヨリスル者ハ病氣又ハ事故
 ニヨリ當日缺席^ズノ者ト雖^レ次ノ検査場ニ
 至リ更ニ検査ヲ乞フ者ハ之ヲ許可ス
 第十二條 志願者検査合格ノ上採用スルルハ陸
 軍部内ニ在テハ教導團ヨリ所管鎮臺或ハ營所
 等へ通報シ華士族平民ニ在テハ縣廳ヲ經テ本
 人ニ達シ上京セシムヘシ然ルルハ陸軍部内志
 願者ハ定規ノ宿泊證書^ハ持參シ之ヲ教
 導團へ差出スヘシ
 但入學ヲ命スルニ當リ再ヒ身体ノ検査ヲ爲

クル五個年ハ徵
 集ニ應ス可キ年
 ノ一月ヲ以テ分
 界ト爲ス可シ
 第百四十二條 徵
 兵令第十八條第
 五項第六項ニ當
 ル者ハ事故ノ存
 スル間徵集猶豫
 ニ屬スト雖モ毎
 年検査所ニ出頭
 シ身體ノ検査ヲ
 受ク可シ
 第百四十三條 徵
 兵検査呼出又ハ

シ自己^{ツテ}ノ不攝生^ヲ等ヨリ病症^ニ罹ル
 モノト認ムルルハ入學ヲ許サルノミナラ
 ス華士族平民ニ在テハ歸郷^ガノ旅費^ハ
 勿論上京ノ旅費ヲモ給セサルモノトス
 第十三條 上京ヲ命セシ者陸軍部内ニ在テハ給
 與概則第一章第二十一條ニ依リ旅費日當金四
 拾錢ヲ支給^シシ華士族平民ニ在テハ其里程^ハ
 ニ應シ左ノ旅費ヲ教導團ヨリ本人管轄廳ニ送
 致^スシ出京後ノ滞在日當ハ直ニ本人ニ支給
 ス
 出京旅費 一日十里詰金四拾錢
 但書前條ニ全シ
 滞留日當 前條ニ全シ

陸軍教導團入學手續

入營ニ際スルト
 半ハ民事訴訟ノ
 爲メ裁判所ノ召
 喚アリト雖モ檢
 査又ハ入營日時
 ヲ延期セス
 第四百四十四條 職
 時若クハ事變ニ
 際シテハ第八十
 條第八十五條但
 書及ヒ八第十九
 條ニ當ル事故生
 マト雖モ詮議ニ
 及ハス
 第四百四十五條 徵

(第一號書式)

教導團入學願(用紙美濃白紙)

某 儀

陸軍出身志願ニテ此度教導團生徒ニ入學仕度候
 間御檢査ノ上御採用被下度入學ノ上ハ固ヨリ御
 規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕万一行狀
 不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ退學ヲ命セラレ候
 共決シテ違背キム不仕御定則ノ服役年限ヲ相終リ
 可申且又本入身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引受
 人ニ於テ引受可仕依テ履歷書相添引受人連署シ
 此段奉願候也

何府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)

兵令第十七條第
 四項(戶主癡疾
 又ハ不具等ニシ
 テ一家ノ生計ヲ
 當ムコト能ハサル
 者ノ嗣子或ハ承
 祖ノ孫)及ヒ同
 令第十二條(第
 十七條ニ照シテ
 徵集ヲ猶豫スル
 ノ限ニアラサル
 項目)ノ諸項ニ
 當ル癡疾又ハ不
 具等ニシテ一家
 ノ生計ヲ當ムコ

何國何郡(區)何町(村)區
 何府(縣)何國何郡(區)何
 町(村)何番地住(寄留)

何兵科團 志願 姓名 印
 何兵科團 何兵科團

年 號 月 日 生
 明治十七年一月何年何月

身元引受人

何府(縣)何族(平民)
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名 印

全

年號月日

姓名 印

陸軍教導團長官姓名殿

右之趣願出候ニ付取調候處相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)戶長ナキ地ハ區長

姓名 印

前書之通相違無之候也

何府(縣)知事(令) 姓名 印

(第二號書式)

履歷書 (用紙願書ニ全シ而シテ書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノアルハ悉ク記載スヘシ)

何府(縣)何族(平民)職業

戸主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)

何年何月種痘(ツバ)天然痘(シベツ) 姓名 印

年 號 月 日 生
明治十七年一月何年何ヶ月

一何年月日任何官(補何等出仕)(免本官)(出仕被

免)(何省(府)(廳))

一何年月日何職被申付(何職被免)(何省(府)(廳))

一何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科

ト能ハサル者ハ
徴兵検査所ニ呼
出シ検査ス可シ
但起居自在ナラ
サル疾患ニシテ
車駕等ヲ用フル
モ出頭スル能ハ
サル者ハ府縣駐
在官醫官及ヒ府
縣兵專課長其家
ニ就キ検査スル
コトアル可シ
第四百十六條 前
條ノ者他府縣ニ
寄留シ該地ニ於

卒業(何學修業)

一何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲

メ何處留學(滯留)

一何年月日何々ニ依リ賞典(ハッ)何々下賜ル

一何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年號月日

本人 姓名 印
右身元引受人

姓名 印

姓名 印

(第二號書式)

戸籍明細書(用紙願書ニ全シ)

祖父 某名 何年何月日生(亡)

テ検査ヲ受ケン
ト欲スルトキハ
適齡者ノ各自届
出ヲ爲ス年ノ八
月十五日迄ニ共
旨ヲ寄留地戸長
ニ願出本籍戸長
ニ届出可シ
第四百十七條 徴
兵署閉鎖後徴兵
令第三十六條(一)
徴兵ノ異動ヲ生
シタル時ハ事由
ヲ届出ツルコト
ニ當ル者ハ翌年

○陸軍教導團入學手續

(現在ナレハ生年月日
死亡ナレハ生年月日)

之ヲ徵集ス可シ	祖母	何ノ誰何女某名	全上
第百四十八條 徵	實父	某名	全上
兵令第四十一條	實母	何ノ誰何女某名	全上
ニ當ル者其年疾	養父	某名	全上
病或ハ犯罪等ニ	養母	何ノ誰何女某名	全上
テ期限ニ際シ入	兄	(義兄) 某名	全上
營スルコト能ハ	弟	(義弟) 某名	全上
スシテ九月一日	姉	(義姉) 某名	全上
ニ至ルモ事故尙	妹	(義妹) 某名	全上
止マサルトキハ	氏神	何神社	
翌年更ニ檢査ヲ	宗門	何宗何寺	
遂ケ仍ホ先入兵	右之通ニ候也		
トシテ徵集ス可			
シ			
第百四十九條 徵			

兵令第四十一條	年號月日	本人	姓名	印
ニ當ル者ニシテ		右身元引受人	姓名	印
爾後同令第十七			姓名	印
條第十八條一第			姓名	印
四項「陸海軍生				
徒海軍工夫」第				
五項「身体未タ				
定尺ニ滿タサル				
者」第六項「疾病				
中或ハ病後ノ故				
ヲ以テ未タ勞役				
ニ堪ヘサル者」				
第八項「禁錮以				
上ニ當ルヘキ刑				
事被告入トナリ				

○士官學校生徒入學檢査格例

陸軍省達乙第拾三號

今般陸軍士官學校生徒二百名官費百八十七名 召募シテ 各召募シテ

候條同校條例第三章第二條揭示シカモ、通各所管

フツンニ於テ志願者取調士官學校士官生徒入學志

願人名書ニ考科表リトキ各二通宛ヲ添ヘ來ル三月

三十一日迄ニ士官學校ヘ送付可致依テ別冊檢査

格例並ニ志願者心得相添此旨相達候事

明治十七年二月二日 陸軍卿大山 巖

○士官學校生徒入學檢査格例

(別冊)

裁判未決ノ者一
 第九項「公權停止中ノ者」及ヒ
 第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一個年以上ノ科程ヲ卒タル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス)ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ在ラス
 第五百十條 徵兵
 既行ノ在地籍ノ者ニシテ沖繩縣

第一條 検査ヲ分テ四則トス

第一則 年齢

第二則 體格

第三則 讀書作文

第四則 算學

第二條 第一則年齡滿十八年以上ニシテ陸軍部内ハ滿二十四年以下華士族平民ニ在テハ滿二十三年以下タルヘシ
 但年齡ヲ算スルニハ本年九月一日ヲ以テ期トス

第三條 第二則ハ身体強壯身長五尺以上ノ者

トス

第四條 第三則ハ其科目ヲ分テ二トス

其一 讀書唐宗八大家文但白文訓點

其二 作文具片假名文但政記外史ニ載スル人物論

第五條 第四則ハ左ノ如シ

算學 一元二次方程式 二元二次方程式

第六條 右四則ノ外地學天体部 大意 書學草木體操 基本 乘馬ノ検査ヲ請フ者アラハ之ヲ許シ若干ノ點數ヲ與フ

第七條

検査場ニ會スル者字書ハ勿論一切ノ書

籍草案シタガキ等ヲ携帶モチスルヲ許サス但要用ノ筆

墨ハ之ヲ持參スルモノトス

第八條 検査ノ順序ハ幾百人ニ限ラス志願ノ者

ハ總テ第一第二則合格キヤウノ上第三第四則ニ

及ヒ北海道ノ内
 徵兵未行ノ地ニ
 轉籍シ更ニ他ノ
 府縣ニ寄留スル
 者ハ寄留地ニ於
 テ各自届出ヲ爲
 シ其本籍ノ者ト
 同シク徵集ニ應
 ス可シ
 徵兵未行ノ地ニ
 單身寄留ノ者ハ
 本籍地ニ歸リ徵
 集ニ應ス可シト
 雖モ全戶寄留ノ
 者ハ徵集猶豫ニ

○士官學校生徒入學検査格例

屬ス可シ

第五百一十一條 徵兵令第三十四條（國民兵入籍屆ノ丁）第三十五條（徵兵適齡屆ノ丁）第三十六條（徵兵異動屆ノ丁）第三十九條（疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診

及フ而シテ第三第四則及ヒ第六條ノ檢査ハ各科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ總點數ヲ比較シテ總人員ノ優劣表ルカキツケヲ作り合格キツクノ者ハ更ニ再審檢査ソマセヲ行フ

但陸軍部内志願者ノ褒賞休業免狀ホマラシメヤスミヲモラヒシカキツケヲ所持スル者及ヒ華士族平民ヨリ志願者ノ官立中學校師範學校同中學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ之ニ若干ノ點數ヲ付與スヘシ

第九條 檢査科目カキ中其一科ニ於テ點數合格セサルアラハ縱令總點數ニ於テ優等ベサルナリト雖モ採用セス

但第六條ノ檢査ハ本文ノ限ニアラス
士官生徒入學志願者心得

斷書ヲ添ヘ即旨戸長ニ届出ルコトノ届出ヲ怠リ又ハ兵役ヲ免レシカ爲メ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セサル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ告發ス可シ

第一條 士官生徒ハ陸軍士官學校條例第一章第三條ニ據リ陸軍部内及ヒ華士族平民中陸軍出身志願ノ者ヨリ檢査ノ上之ヲ採用ス然レモ左ニ記スル者ハ採用スルコトナシ

- 一 妻子アル者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ツカノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第二條 士官生徒ハ志願兵トナシ入學ノ日ヨリ常備兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ヲ奉セシムルヲ以テ其入校ノ日決シテ他志ナク陸軍ニ從事スルノ誓約チカイヲナサシム故ニ入學ノ後ハ自己ココロノ情願ケガレヲ以テ退校又ハ歸省カヘルスル

○士官學校生徒入學檢査格例

第百五十二條 徵

兵署又ハ徵兵檢
査所ニ差出ス可
キ願書ハ三通屆
書ハ二通徵兵署
宛ニテ差出ス可
シ

第十八章 附則

第百五十三條 明

治十四年一月ヨ
リ明治十六年十
二月迄ニ滿二十
歳トナリタル者
ニシテ舊徵兵令
第二十八條(國

ヲ許サス然レモ病患ニテ修學ニ堪ヘ難キ者
ハ軍醫ノ診斷ニ依テ之ヲ處分ルキス又學術不勉
強ヨリ品行不正等ニシテ成業ガルキノ目途無キ
者ハ詮議ノ上之ヲ下士トナシ若シクハ退學セ
シメテ鎮臺諸隊ニ送附ツケリシ定期ノ服役年限
ヲ帶ハシム

第三條 士官生徒ハ官費生ツヰント自費生ツヰンノ二

種トス其官費生ハ修學費用及被服イキルモノ食料等
一切官給トシ且若干ノ手當金ヲ給シ其自費生
ハ修學費用及ヒ寢具ヲ除ク外被服食料並ニ
諸修理マシ等ノ費用一ヶ月金八圓宛上納シ年度
末ニ至リ過不足ヲ計算スハ一
切之ヲ上納セシム

但自費生ハ在校修學一ヶ年以上ニシテ學術

民軍ノ外兵役ヲ

免スニ當リ國

民軍ノ外免役ニ

属スル者新徵兵

令ニ照シ常備年

期ノ第七年檢査

時限内ニ在テ名

稱ヲ罷メタルト

キハ更ニ徵集ニ

應セシメ其第七

年檢査時限ヲ經

過スル者ハ舊徵

兵令ニテ處分セ

シ儘之ヲ名簿ニ

据ヘ置ク可シ

優等ノ者ヨリ順次官費生ニ遷スモノトス

第四條 自費入學ノ者モ固ヨリ陸軍出身志願ノ

者タルヲ以テ身分ノ取扱總テ規則ニ據リ處分

スルコト官費生ニ異ルコトナシ

第五條 士官生徒修學期限ハ兵種ニヨリ同シカ

ラス歩兵騎兵科ハ三ヶ年砲兵工兵科ハ五ヶ年

五年ノ内後ノ二ヶ年ハ少

尉ニ任シ生徒少尉ト稱ス

第六條 陸軍部内所志願者ハ各其所管ニ出願シ

各所管長ニ於テ其志願者ヲ取調ヘ第一號書式

ノ八名書ニ一通ニ定例ノ考科表ソトメキヲ添ヘ士

官學校ヘ送付スヘシ華士族平民ヨリ志願ノ者

ハ第二號書式ニ照準アハシシ願書履歷書共正副

二通宛本籍又ハ寄留地ノ府縣廳ニ差出シ各府

第百五十四條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十九條(平時ニ於テ兵役ヲ免ス)第三十條(ケ年ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘシ)第三十一條(官省院使府縣准官吏御用掛御雇等

縣廳ニ於テ取纏メ同校ヘ送附スヘシ尤モ志願者中轉任カトチ轉職カクシ又ハ轉籍セキツ等ヲナス者アルハ其所管廳ヨリ同校ニ通牒スヘシ
但檢査格中第六條ノ檢査ヲ請フ者アレハ其科目ヲ記載シ陸軍部内ハ入學志願人名書ニ記入シ華士族平民ヨリスルモノハ履歷書ノ末ニ認メ差出スヘシ
第七條 在東京陸軍部内並ニ華士族平民中士官生徒志願ノ者ハ士官學校ニ於テ檢査ヲナシ其他ハ各鎮臺營所或ハ府縣下ニ檢査官ヲ派出シ檢査ヲ行フ者トス然レモ志願者ノ多寡タビニ依リ甲地志願者ヲ乙地ニ集メ檢査スルコトアルヘシ
但陸軍部内甲地志願者ヲ乙地ニ集メ檢査ス

ハ之ヲ免役セスト雖モ餘人ヲ以テ代フ可カラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ)及ヒ第三十四條(一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘキ者及翌年回シニスヘキ者次年ニ至リ猶該條ニ當ル時ハ又之ヲ猶豫若ク

ルルハ往復旅費並ニ滞在日當ハ給與概則第十一章第十八條ニ依リ旅費日當金三拾錢滞在日當金貳拾八錢ヲ支給スヘシ
第八條 檢査場開設ノ地並ニ檢査時日等ハ派出所ヨリ直ニ鎮臺營所等及ヒ府縣廳或ハ郡區役所ヘ通達スヘシ
第九條 華士族平民ヨリ志願ノ者ハ必ス檢査時日ニ先チ指示スル地ノ郡區役所ニ出頭シ止宿所等詳細届ケ出ツヘシ郡區役所ニ於テハ右書類取纏メ置キ檢査官到着ノ節差出スヘシ
但檢査場往復旅費並ニ滞在費等ハ一切自辨タルヘシ
第十條 檢査時日ニ際シ志願者中病氣又ハ事故

○士官學校生徒入學檢査格例

ハ翌年回シニス
ヘシ而テ終ニ常
備年期ノ第三年
検査時限ニ至リ
猶該條ニ當ル時
ハ平時ニ於テ之
ヲ免役スヘシ
ニ當リ平時免役
又ハ徵集猶豫ニ
屬スル者新徵兵
令ニ照シ常備年
期ノ第七年検査
時限内ニ在テ名
稱ヲ罷メタルト
キハ更ニ徵集ニ

等ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時
日ヲ遷延シ更ニ検査場ヲ開クコトナシ
但華士族平民ヨリスル者ハ病氣又ハ事故ニ
ヨリ當日缺席ノ者ト雖モ次ノ検査場ニ至リ
或ハ東京検査場ニ於テ更ニ検査ヲ乞ノ者ハ
之ヲ許可スヘシ

第十一條 志願者検査合格ノ上ハ上京ヲ命シ更
ニ再審^{フタビ}検査ヲ行ヒ優等ノ者ヨリ順次定員丈
ケヲ採用シ其他ノ者ハ直チニ其本管へ復歸セ
シムヘシ

第十二條 再審検査ノ爲メ上京ヲ命スヘキ者ハ
陸軍部内ニ在テハ士官學校ヨリ所管鎮臺或ハ
營所等へ通報セラスヘシ然ルモハ定規ノ宿泊證

應セシメ其第七
年検査時限ヲ經
過スル者ハ新徵
兵令第三十二條
ニ據リ第二豫備
徵員ト爲ス可シ
第百五十五條 現
今豫備軍服役中
ノ者ハ最初豫備
軍ニ編入セシ年
ノ四月二十日ヨ
リ起算シ四箇年
ノ役ニ服セシメ
満期ノ後後備兵
役ニ服セシム但

書ヲ附與シテ上京セシムヘシ華士族平民ニ在
テハ第三號書式ノ達書ヲ本人ニ附與^{フタメ}ス該證
ハ宿泊證書ヲ兼ヌル者ナルヲ以テ旅次^{ドウ}宿泊
ハ必ス式ニ依リ之ヲ記載シ着京ノ當日又ハ翌
日迄ニ該證書未ニ止宿所ヲ詳記シ士官學校へ
出頭シ之ヲ差出スヘシ

第十三條 再審検査ノ爲メ上京ヲ命スル者陸軍
部内ニ在テハ給與概則第十一章第二十一條ニ
依リ旅費日當金四拾錢ノ割ヲ以テ支給シ同シ
ク滞留日當ハ金貳拾八錢ノ割ヲ以テ凡ソ十日
分ヲ給シ華士族平民ニ在テハ自費志願者ヲ除
クノ外旅費トシテ一日十里詰金四拾錢滞留日
當金貳拾八錢ノ割ヲ以テ着京ノ上精算シテ支

定期ニ在ラスシ
 テ臨時豫備軍ニ
 編入セシ者ハ其
 編入セシ日ヨリ
 起算シ四個年ノ
 役ニ服セシメ滿
 期ノ後後備軍役
 ニ服セシム
 第百五十六條 現
 今後備軍服役中
 ノ者ハ最初後備
 軍ニ編入セシ年
 ノ四月二十日ヨ
 リ起算シ五個年
 ノ役ニ服セシメ

給マヌヘシ

但不採用シヤクイノ者其本管へ復歸セシムル時
 モ亦本文同様ノ旅費ヲ給ス 陸軍部内ノ者ノ旅費
 ハ本人歸着ノ上其所
 管領事又ハ營所等ヨリ 然レモ華士族平民ニ在テ
 ハ若シ上京途中發病シ自己ノ不攝生シヤウ等
 ヨリ生スル者ト認ムル者ハ歸郷ノ旅費ハ勿
 論上京ノ旅費ヲモ給セサルモノトス
 第十四條 總テ入學ヲ命スル者ハ父兄親族等總
 テ一家ヲナス身元慥ナル者二名 内一名ハ在東京
 ノ者タルヘシ ヲ以テ身元引受人トナシ第四號 自費生徒
 ハ第五號 書式
 ノ證書ヲ本籍又ハ寄留地ノ府縣廳ヲ經テ士官
 學校長へ差出スヘシ
 但引受人事故アリテ其引受ヲ辭コトスルカ或

滿期ノ後國民軍
 役ニ服セシム但
 定期ニ在ラスシ
 テ臨時後備軍ニ
 編入セシ者ハ其
 編入セシ日ヨリ
 起算シ五個年ノ
 役ニ服セシメ滿
 期ノ後國民兵役
 ニ服セシム
 第百五十七條 舊
 徵兵令第三十六
 條)平時免役ニ
 屬シ第四十九條
 及第五十一條但

ハ死亡セシトハ必ス代人ヲ撰ミ府縣廳ノ與
 書ヲ以テ届出ヘシ

第十五條 身元引受人ハ第四及ヒ第五號入學證
 書式中ニ示ス如ク生徒身上ノ儀ハ何事ニ依ラ
 ス引受ヘキ者ナルヲ以テ假令ハ生徒修學中諸
 器具ヲ破損紛失シ自償ノ際キト本人資力カカリニ不
 及時ノ如キハ必ス身元引受人ヨリ上納セシム
 ヘシ

(第一號書式美濃野紙)本達書ハ朱書ナリ

士官學校士官生徒入學志願人名

隊號(所管)

(入營兵出願者書式)

官 姓 名

年 號 月 日 生
 明治十七年九月何年何ヶ月

○士官學校生徒入學檢査格例

書ニ當ル者ハ第

一豫備徴兵ト爲

シ云々ニ據リ

第一豫備徴兵服

役中ニシテ年齢ニ

十七歳ヲ經過セ

シ者及ヒ現ニ第

二豫備徴兵服役

中ノ者ハ新徴兵

令第三十二條

第十七條ニ當ル

者ニシテ其年徴

集ノ命ナキ者第

十八條第二十一

條ニ當ル者ニシ

同

全

合何人

右當臺(局)下士(卒)士官生徒入學志願ノ處平素行
狀方正勤務勉勵ニシテ士官生徒ニ適當ノ者ト信
認候ニ付考科表相添差出候間御檢査ノ上入學御
差許有之度候也

年號月日

所管長 官 姓名

陸軍士官學校長官姓名殿

(第二號書式) 用紙美濃紙以下入學
證書ノ外之ニ同シ 本達書ハ朱書ナリ

士官學校士官生徒入學願

(華士族平民出願書式)

某 儀

陸軍出身志願ニ付此度御校士官生徒入學(自費

テ七個年間其事
故ノ存スル者及

第一豫備徴員ヲ

終リタル者年齢

滿三十二歳迄ハ

之ヲ第二豫備徴

員トス)ニ據リ

第二豫備徴員ト

爲ス可シ

第百五十八條 新

徴兵令第二十二

條ノ諸項ニ當ル

者ト雖モ其事柄

ノ明治六年一月

十日即チ徴兵令

入學) 奉願候間御檢査ノ上御採用被下度此段奉
願候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留) 姓名 印

年號 月 日 生
明治十七年九月何年何ヶ月

身元引受人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名 印

年號月日

陸軍士官學校長官姓名殿

前書ノ趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長 姓名 印

○士官學校生徒入學檢査格例

前書ノ通相違無之候也

府(縣)知事(令)

姓名印

(履歷書式)

書式ニ示ス外履歷ニ係ル者アルハ悉ク記載スヘシ

本達ハ朱書ナリ

履歷書

府(縣)何族平民職業

戸主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)

何年種痘(天然痘)

姓名

年號月日生
明治十七年九月何年何ヶ月

一祖父母

何某存亡

一父母養父母

全全

此他兄弟姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載スヘシ

一何年月日任官(補何等出仕)(免本官)(出仕被免)

創定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス
第百五十九條 明治十六年第十二月迄二年齡滿二十歳トナリタルモノニシテ舊徵兵令第六十條(國民軍届出方)第六十一條(徵兵各自届出方)及ヒ舊徵兵事務條例第百八十條

(何道府縣等)

一何年月何職被申付(何職被免)(何道府縣等)

一何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)ニ入り教

師某ニ就テ何學何迄ヲ學フ

但學科精細ノ課目又ハ修學セシ書名等ヲ記載スヘシ

一何年月日ヨリ何年月日迄何學研究商業ノ爲メ

何國(外國)ニ在留

一何年月日何ニ依テ賞典何々下賜ル

一何年月日何々ノ科ニ依リ何罰被申付

檢査格中第六條ノ檢査ヲ請フ者ハ其旨ヲ記載ス可シ

右之通相違無之候也

(徵集猶豫ノ者及翌年回ノ者事) 故止ム時届出ノ()ノ届出ヲ怠タル者明治十七年九月十五日迄ニ届出サルトキハ新徵兵令第四十三條(國民兵入籍届徵兵適齡届徵兵異動届疾病或犯罪ノ者事由届等ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ三圓以上三拾圓以

○士官學校生徒入學檢査格例

下ノ罰金ニ處ス
ニ據リ處分ス
可シ

○刑事訴訟之部

第一編 原告

遊テ刑事ニ關スル
訴訟及其他ノ書類
モ白紙ニ認ムヘキ
モノナリ
刑事原告人ハ即チ
檢察官ナリ然レモ
本書ヲ編著スルノ
旨趣ハ官吏ノ參考
ト爲スタメニアラ
ス人民ノ必携ヲ主

本人 姓名 印

右身元引受人

姓名 印

年號月日

(第二號書式)

本達書ハ
朱書ナリ

府(縣)何族(平民)

何 某

右再審檢査候條來ル何日迄ニ上京可致此旨相達
候事

年號月日

陸軍士官學校

宿泊證

何月何日何地某方宿ス (是ヨリ以下本書式ハ

朱書)

何府縣管下何國何郡區何町村戸長

何 某 印

何月何日ヨリ何日迄病氣或ハ何々ニ依リ滞在

右同斷

全

何月何日何地乘船何月何日何地上陸

何船長

何 某 印

(第四號書式) 用紙證(本達書ハ今證券界紙ハ廢止恐
券界紙)朱書ナリ(ラクハ壹錢印紙貼用)

士官學校士官生徒入學證書

某 儀

陸軍出身志願ニテ此度御校士官生徒入學御許可
相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從
事可仕萬一學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ下士

眼トスルモノユハ
官吏ノ作ル可キ文
書類ハ一モ之レヲ
藏セサルナリ讀者
宜シク隔靴痛痒ノ
歎ヲ爲ス丁勿レ
第一章 告訴
告訴ハ身体ニ關ス
ルモノト財産ニ係
ルモノト身体財産
ニ屬スルモノトア
リ又タ告訴ニハ私
訴ヲ附帶スルコト
アリ
告訴狀ハ一通差出

○士官學校生徒入學檢査格例

スヘキモノナリ

第一款

身体ニ關スル告

訴

第一 擅ニ人ヲ逮

捕シ私家ニ監禁シ

タル告訴狀ノ文例

ヲ示ス但被告人ノ

姓名分明ナルモノ

ニシテ且他ニ私訟

ヲ起サ、ルモノニ

カ、ル

告訴狀

何府(縣)何國(何

郡(區)何町(村)何

番地住(寄留)平

若クハ退學ヲ命セラレ候共決シテ違背不仕御定

則之服役年限ヲ相終リ可申且本人身上之儀ハ何

事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可申依テ引受

人連署證書如此候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名印

身元引受人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名印

全

全

年號月日

全

陸軍士官學校長官姓名殿

前書ノ趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長

姓名印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令)

姓名印

(第五號書式)用紙證(本達書ハ

券界紙)朱書ナリ

士官學校生徒入學證書(自費入學生願書)

某 儀

陸軍出身志願ニ付此度御校士官生徒自費入學御

許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍

ニ從事可仕萬一學術不勉強又ハ品行不正等ニテ

下士若クハ退學ヲ命セラレ候共決シテ違背不仕

民(士族)

被告人 何ノ誰

右之者傲告訴人ヲ

逮捕シ且監禁シタ

ルニヨリ今般告訴

スル要領左ノ如シ

事實

云々(實際成行ノ

順ヲ追テ綿密ニ記

載スヘシ)

証據

云々(証據トナル

ヘキ丁、物品アラ

ハ其次第、証人ア

ラハ其次第、書類

○士官學校生徒入學檢査格例

アラハ其寫三第二號
 等ノ番號ヲ朱書シ
 一々記載スヘシ
 告訴ノ理由
 告訴人ハ前記事實
 ノ如キ害ヲ被リ尙
 其証據ヲ併列シテ
 今茲ニ告訴仕候理
 由ハ被告人ニ於テ
 刑法第何條ノ罪ヲ
 犯シタルモノト確
 認スルニアリ因テ
 治罪法第何條ニ據
 リ告訴仕候以上
 明治何年

御定則ノ服役年限ヲ相終リ可申且入學中ノ費用
 ハ御規則之通上納可致若シ本人上納難致節ハ引
 受人ヨリ相納可申其他本人身上ノ儀ハ何事ニ依
 ラス身元引受人ニ於テ引受可申依テ引受人連署
 證書如此候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)產 姓名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留) 年號 月 日 生
 年號 月 何年 何ヶ月

身元引受人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

姓名 印

何月何日
 何府(縣)何國何
 郡(區)何町(村)何
 番地住(寄留)士
 族(平民)
 告訴人 何ノ誰印
 何地縣署裁判所(一
 地)何縣署裁判所何
 地(支廳)
 檢事掛
 判事補氏名殿
 (檢事氏名殿)
 司法警察官ニ差出
 ス申ハ(何地警察
 署長警部氏名殿)
 ト宛ツヘキモノナ
 リ
 (以下ノ文例ニハ
 一單ニ檢事宛トス

全

年號 月 日

全

陸軍士官學校長官姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長 姓名 印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令) 姓名 印

(此他陸軍官衙ニ種々ノ學校アレハ紙數ニ限
 リアルヲ以テ略シ唯前ノ表面中へ學校ノ種類
 其他ヲ出スヲ熟覽シテ了知スヘシ)

官立中學校々則

文部省所轄大阪中學校々則抄錄

總則

○官立中學校々則

レトモ豫審判事
又ハ司法警察官
ヲ宛ルコトハ
本例ト同シ

第二 右ノ告訴狀
ヲ明ラカニセント
欲セバ尙辨明書ヲ
差出スヘシ

其文例

何府(縣)何國(何
郡)何(何)村(何
番地)住(寄留)士
族(平民) 何ノ誰
被告(人) 何ノ誰
右ノ者告訴人ヲ擅
ニ逮捕シ且監禁シ
タル件ニ付明治何
年何月何日告訴仕

第一條 當校ハ文部省ノ所轄ニシテ中人以上ノ
業務ニ就クカ爲メ又ハ高等ノ學校ニ入ルカ爲
メニ必須ノ學科ヲ授クル所トス

第二條 當校教科ハ初等及高等ノ中學科トス

第三條 初等中學科卒業ノ者ハ高等中學科ヲ修
ムヘキモノトス

但本文卒業ノ者ハ亦師範學科諸專門ノ學科
等ヲ修ムルコトヲ得

第四條 高等學科卒業ノ者ハ廣ク士人中正ノ
業務ヲ執リ又大學科高等專門學科等ヲ修ムル
コトヲ得

但大學科ヲ修メントスル者ハ當分ノ内尙必
須ノ外國語學ヲ修ムルヲ要スルコトアルヘシ

第五條 當校ノ生徒ハ大約三百名ヲ定員トス

第六條 當校ノ生徒タルコトヲ得ル者ハ男子ニ
シテ品行端正身體健康小學中等科卒業以上ノ
學力アル者タルヘシ

第七條 當校ノ生徒タル者ハ保證人二人ヲ要ス
其保證人ハ親戚若クハ知縁ノ丁年以上ノ男子
ニシテ内一人ハ大阪市街若クハ接近郡村ニ於
テ一家計ヲ立ツル者タルヘシ

第八條 生徒ノ學級ヲ定メ卒業ヲ認ムルハ試業
規則ニ依ル

第九條 生徒獎勵ノ爲メ學力最優等品行最端正
ノ者ニ其學資ヲ給與シテ之ヲ褒賞給費金ト稱
シ其之ヲ受クル者ヲ褒賞給費生ト稱ス

候處尙其次第ヲ綿
密ニ辨明センタメ
左ニ開陳仕候
云々(月日)ノ順ヲ
追既ニ差出シタル
告訴狀ヲ補遺シ且
其細密ト証據トヲ
漏レナク記載スヘ
シ(若シ被告人逃
亡ノ恐レアルコトヲ
知ルトキハ左ノ如
ク記入スヘシ)
被告人何ノ誰ハ告
訴セラレタルコトヲ
知り頻リニ証據ヲ

源滅セント企テ且
逃亡スルノ恐レモ
有之候間爲念上申
仕候ナリ
右項々ハ御參考ノ
爲メ奉呈仕候以上
明治何年
何月何日
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
告訴人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
檢事氏名殿
若シ其後ニ至リテ
証據物又ハ証人等

ノ新ニ發見スル
アルトキハ幾度ニ
テモ上申書ヲ差出
スヘシ
第三 今其一例ヲ
示サン
上申書
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
告訴人 何ノ誰
右私儀何府(縣)何
國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士
族(平民)何ノ誰ニ

第十條 生徒修學及取締ノ便ヲ計リ寄宿舎ヲ設ク

教授規則

第一條 初等中學校ハ修身和漢文英語算術代數
幾何地理歴史生理動物植物物理化學經濟記簿
習字圖書及唱歌體操トス
但唱歌ハ教授法等ノ整フヲ待チテ之ヲ設ク
ヘシ
第二條 高等中學校ハ初等中學校ノ修身和漢文
英語記簿圖書及唱歌體操ノ續ニ三角法金石本
邦法令ヲ加ヘ又更ニ物理化學ヲ授クルモノト
ス
第三條 修業年限ハ初等中學校ヲ四箇年トシ高

等中學校ヲ二箇年トシ通シテ六箇年トス

第四條 學級ハ初等中等科ヲ四級トシ通シテ十

二級トス

第五條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月十日

ニ終ル之ヲ前後ノ二學期ニ分チ一學期ヲ以テ

一學級ノ修業期限トス其前學期ハ九月十一日

ニ始リ翌年二月十五日ニ終リ其後學期ハ二月

廿三日ニ始マリ七月十日ニ終ル

第六條 授業時間ハ初等中學校ヲ每週二十八時

トシ高等中學校ヲ每週二十六時トス乃每週日

曜日ヲ除キ土曜日ノ授業ハ三時間トシ高等中

學科ニ於テハ水曜日ノ授業モ亦三時間トシ佗

ハ毎日五時間ノ授業トス

對シ拉二人ヲ逮捕
シ且監禁シタル被
害事件ニ付明治何
年何月何日告訴仕
リ尙又告訴ノ理由
ヲ辨明センダン明
治何年何月何日辨
明書ヲ奉呈シタリ
シカ追テ取調候處
該件ノ証據トナル
ヘキ事柄ヲ發見仕
候ニ付左ニ追申仕
候
何府(縣)何國何郡
(區)何町(村)何番地

但授業時間ノ始終ハ日ノ長短ニ因テ之ヲ定
メ其都度揭示スヘシ

入學規則

第一條 生徒募集ハ毎年二回即九月二月ニ於テ

但缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアル

第二條 當校ニ入學セント欲スル者ハ試業規則

ニ依リ學力檢定ノ上之ヲ許ス

但試業及第ノ者募集定員ニ超ユルコトアル

トキ更ニ其優等ノ者ヲ選ヒテ入學セシム

第三條 當校ノ生徒ニシテ一旦退學ノ後更ニ入

學ヲ請フ者アルルハ直ニ之ヲ許スコトアルヘ

住(寄留)士族(平民)
何ノ誰ハ告訴人カ
被告ニ逮捕セラレ
タル時被告ニ向テ
一應ノ挨拶ヲ加ヘ
現ニ其時ノ景況ヲ
目撃セシ者ニ有之
候間證人トモ可相
成儀ト被存申候
別紙書翰一通ハ告
訴人ノ監禁中被告
ヨリ其親友ニ送り
タル自筆ニカ、ル
モノニシテ被告ノ
使ノ者(被告ノ雇
僕タル何

シ

第四條 當校ニ入學セント欲スル者ハ入學願書

及履歷書ヲ出スヘシ其書式左ノ如シ

入學願書

私儀御校ニ入學志願ニ付御許可被下度乃履歷書

相添ヘ此段願上候也

大阪府下宿所

何府縣族籍(戶主ナラサレハ誰子弟等)

何誰印

年月日

年月日生

大阪中學校長何誰殿

履歷書

學業

○官立中學校々則

ノ誰)ヨリ受取り
ナリ)ヨリ受取り
タルモノナリ
右ハ御参考ノタメ
奉呈仕候以上
明治何年
何月何日
右
何ノ誰
何地輕罪裁判所
檢事氏名殿
證據物數通アルカ
又ハ告訴狀辨明書
等ニ證據アルトキ
ハ其ノ號ニ次クヘ
半號ヲ付シ又ハ番
外何號又ハ乙第何

一年月何地官公立何學校ニ入り小學何等科何級
若クハ何學科起業爾來何年間修業其卒業セシ
階級用書何ヤ
賞罰
一年月何所ニ於テ何事ニ付賞ヲ受ケ若クハ罰ヲ
蒙ル等
右之通有之候也

年月日
何府縣族籍(戸主ナラサルハ誰子弟等)
何誰印
年月日生

第五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ノ證
書ヲ出スヘシ
入學證書
(用紙證券界紙)
私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク

號等ノ號ヲ付スヘ
シ
第二款
財産ニ關スル告訴
第四 窃盜ニ遭フ
タル告訴狀ノ文例
ヲ示ス但被告人ノ
姓名不分明ニシテ
且私訴ヲモ附帶ス
ルモノニカ、ル

告訴狀
一博多女體堂筋
但緋色地ニ茶ノ
棒縮
此代價金何圓

相守リ他念ナク勤學可仕候此段相誓候也
本籍宿所
大阪府下宿所(通學生徒ニ限ル)
何府縣族籍(戸主ナラサルハ誰子弟等)
何誰印
年月日生

大阪中學校長何誰殿
前文何誰在學中一切ノ事件ハ私負擔可仕候乃
證書如此候也

宿所
何府縣族籍(戸主ナラサルハ誰子弟等)
何誰印
年月日生

○官立中學校々則

一何々
 此代價金何圓
 合計何類何點
 此代價合計何圓
 右ハ私所有ノ物品
 ニテ私居宅ノ何處
 ニ入レ置(脱ヲオ
 リ)有之候處明治
 何年何月何日午後
 第何時ヨリ第何時
 迄ノ間ニ於テ住所
 身分姓名面貌衣服
 休軀共存セサル者
 ニ窃取セラレ候間
 今般告訴スル要領

府立中學校規則
 甲第拾八號布達抄錄 明治十六年四月十四日
 府立中學校規則別冊之通改定候條此旨布達候事
 但從前之布達指令等本則ニ抵觸^{カサツ}ノモノハ
 渾テ廢止トス
 中學校規則
 第一章 教則
 第一條 中學校ハ高等ノ普通學科ヲ授クル所ニ
 シテ中人以上ノ業務ニ就クカ爲メ又ハ高等ノ
 學校ニ入ルカ爲メ必須^{ヒツ}ノ學科ヲ授クル者ト

同 同
 何 誰 印
 年 月 日 生

左ノ如シ

事實
 云々(窃取セラレ
 シ有様ヲ一々記載
 スヘシ尙物品ノ入
 レ物ノ位置ト其ノ
 蓋又ハ引出シ開キ
 様ト戸前障子ノ明
 ケ様ト壁ノ切り様
 等ヲ列載スヘシ)
 証據
 云々(窃取人ノ遺
 失セシモノ等アラ
 ハ一々列載シテ落
 アリシ場所等ヲ明

ス
 第二條 中學校ヲ分チテ初等高等ノ一二等トス
 第三條 初等中學校ハ修身、和漢文、英語、算術、代
 數、幾何、地理、歷史、生理、動物、植物、物理、化學、
 經濟、記簿、習字、圖畫及唱歌、體操トス
 但唱歌ハ教授法等ノ整フヲ待テ之ヲ設クハ
 シ以下之ニ倣フ
 第四條 初等中學校卒業ノ者ハ高等中學校ハ勿
 論高等師範學科諸專門ノ學科等ヲ修ムルヲ得
 ヘシ
 但大學科ヲ修メントスル者ハ當分ノ内必須
 ノ外國語學ヲ修メントコトヲ要ス
 第七條 初等中學校第一年期卒業ノ上師範學校

示スヘシ
 告訴人ハ前記ノ物
 件ヲ事實ノ如キ謬
 合ニテ窃取セラレ
 候ニ付右ノ窃取人
 ハ刑法第三百六十
 六條ノ罪ヲ犯シタ
 ルモノト確認仕候
 因テ治罪法第九十
 三條ニ據リ告訴仕
 候尙治罪法第一百
 條ニ據リ併セテ私
 訴仕候間前記物件
 又ハ其代價金速ニ
 還給相成候様奉願

ニ入學セント欲スル者ハ師範學科第一年後期
 生ニ編入スルヲ得
 但年齡十八年以下ノ者ハ此限ニ非ス
 第八條 修業年限ハ初等科ヲ四ケ年トシ高等科
 ヲ二ケ年トシ通シテ六ケ年トス
 第九條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年七月三十一
 日ニ終ル而シテ之ヲ前後ノ二學期ニ分チ前學期
 ハ九月一日ヨリ翌年二月十五日ニ至ル後學期
 ハ二月十六日ヨリ七月三十一日ニ至ルモノト
 ス
 第十條 初等中學科ヲ八級ニ分チ高等中學科ヲ
 四級ニ分チ各等科每級事業ヲ一學期間トス
 第十一條 授業時間ハ一年四十四週初等科ハ一

候以上

明治何年

何月何日

何府(縣)何國何
 郡(區)何町(村)何
 番地住(寄留)士
 族(平民)
 告訴人
 兼民事 何ノ誰印
 原告人
 何地輕罪裁判所
 檢事氏名殿

窃取人ノ容貌ノ分
 明ナルカ衣服等ヲ
 見覺ヘアルトキハ
 其ノ次第ヲ各項ト
 シテ冒頭ニ記入ス

週三十時一日五時二十分間高等科ハ一週二十
 八時一日五時間トス

但土曜日二時間ヲ算入セス

第十二條 休業ハ日曜日祭日祝日夏期(自八月一
 日)冬期(自十二月廿五日)トス

但臨時休業ハ其時々揭示スヘシ

第十三條 年中授業始終時限左ノ如シ

自九月一日 午前八時始業午後二時終業
 自十月卅一日 午前八時始業午後二時終業
 自十一月一日 午前九時始業午後三時終業
 自十二月卅一日 午前九時始業午後三時終業
 自四月一日 午前八時始業午後二時終業
 自五月卅一日 午前八時始業午後二時終業
 自六月一日 午前六時三十分始業
 自七月卅一日 正午十二時終業

○府立中學校規則

ヘシ
 物件ノ代價ハ現時ノ相場ヲ以テスルヲ至當ナリトスヘシ
 辨明書上申書等ハ概テ前款ニ據ルモノナリ
 第三款
 身体財産ニ關スル告訴
 第五 強盜ニ遇フタル告訴狀ノ文例ヲ示ス但被告人ノ姓名不分明ナレバ

第十四條 各學科授業要旨左ノ如シ

一修身 博ク古今ノ嘉言善行ニ依リ忠孝節義廉耻ノ心ヲ感發セシメ務メテ人倫ノ大道ヲ授ケ必之ヲ躬行^{ニシテ}セシムルヲ要ス
 一和漢文 和漢文ヲ分チテ讀書作文トス讀書ハ讀法ヲ正クシ音訓字義句法章意ヲ明ニシ稍進テハ言詞ノ活用文章ノ體格等ヲ授ケ務メテ文意ニ通曉^{スル}セシムヘシ作文ハ假名交リ文及ヒ書牘^{ニシテ}文ヨリ始メ漸ク進ムニ隨ヒ漢文ヲ綴ラシメ其課題ハ實用ニ適スルモノヲ撰フヘシ
 一英語 綴字^{モツツ}、書取及讀方ヨリ譯讀ニ及ホシ漸ク進ムニ及ヒ文法修辭ヲ教ヘ英語ヲ理

容貌衣服ハ分明ナリ又タ私訴ハ附帶セシテ別ニ爲スモノニカ、ル
 告訴狀
 被告人 住所姓名 不分明
 一色黒半方
 一顔丸半方
 一口大ナル方
 一眼耳鼻常体
 一丈高半方
 一散髮
 一音聲大ニシテ何國語ナ

會セシムルノ資^トトス作文ハ記事文、書牘文ヲ作ラシメ又和文ノ雅馴ナルモノヲ撰ヒ之ヲ英文ニ綴ラシメ務メテ其活用ヲ試ミ又兼子テ習字ヲ授クヘシ
 一算術、代數 算術ハ諸法式ヲ正シクシ數理ヲ明ニシ實際適切ノ問題ヲ與ヘテ日用ノ計算ヲ習熟セシムヘシ代數ハ整數、四術ヨリ漸次順列、錯列、級數ヲ授クヘシ殊ニ代數ハ數學ヲ講明スル關鍵^{ナリ}ナレハ務メテ數理ノ基ク所ヲ知ラシムルヲ要ス
 一幾何三角法 幾何ハ線、面、角、容、性質、關係等ヨリ常用曲線ニ及ホシ三角法ハ八線ノ性質變化等ヨリ三角形ノ測定法ヲ講明シ土

地ノ遠近、高低、面積等ヲ實測スル要旨ヲ授クヘシ

- 一地理 地勢、疆界、季候、物産等凡ソ地學ニ關スル緊要ナル部分ヲ知ラシメ地文ハ地球ノ組織、氣象、動植物、配置等ヲ理會セシムヘシ殊ニ本邦地誌ハ詳密ニシテニ涉ルヲ要ス
- 一歴史 本邦建國ノ體制、歷世ノ沿革、風俗ノ變遷、人智ノ進否、文運ノ隆替、今代至治ノ政績等ヲ講明シ次ニ外國史ヲ授クヘシ凡ソ歴史ハ事實ヲ強記シテ止マラス務メテ尊王愛國ノ志氣ヲ養成セシムヲ要ス
- 一生理 總論、骨骼、筋肉、皮膚、構造及消化、循血、呼吸器等ノ効用ヲ始メ感覺器、

一衣服ハ木綿
 單衣一枚
 一帯不分明
 右ノ者義告訴人ノ
 宅ニ押入り強盜ヲ
 爲セシニ付今般告
 訴スル要領左ノ如
 シ
 盜品
 云々(前款竊盜ノ
 告訴狀ニ載セタル
 如ク一々評價シテ
 明細ニ記載スヘシ)
 事實

云々(強取セラレ
 シ有様ヲ一々列載
 スヘシ尙被告ノ唱
 ヘシ言語身振等マ
 テモ漏サズ載スル
 ヲ要ス)
 被害
 云々(強盜ノタメ
 ニ創傷セラレ、ニ
 至ラハ其創傷ノ深
 淺大小等ヲ一々記
 載シ家屋土藏等ノ
 損傷モ盡ク載スル
 ヲ要ス)
 証據

神經等ノ作用ヲ知ラシメ兼テ養生法ヲ授ク天稟ノ生命ヲ保全セシムヘシ

- 一動物植物金石 總論、名稱、分科、性質、功用等ヨリ構造形狀產地等ニ及ホシ漸ク進テハ地質ノ大意ヲ授クヘシ凡博物ヲ授クルニハ務テ浮華ニ流レズ實用ニ適センコトヲ要ス
- 一物理 最初大意ヲ授ケ稍進テハ重、熱、聽、視ノ諸學ヨリ電氣、磁氣、氣象ノ大意ニ及ホシ凡ソ物理ヲ授クルニハ器械ヲ用ヒ若クハ近易ノ方便ニ依リ實驗ヲ試ミ務メテ其原理ヲ推究セシムヘシ
- 一化學 無機化學ノ大意ヨリ非金屬、金屬ノ諸元素、其性質、採收及物質ノ離合變化等ノ理

云々(証據トナル
 へキ物件并ニ証人
 トナルへキモノア
 ルトキハ一々之レ
 ヲ列載スヘシ)
 告訴ノ理由
 告訴人ハ前記事實
 ノ如キ有様ニテ害
 ヲ蒙リタリ尙其証
 據並ニ其他ニ據ル
 モ告訴人ハ被告ニ
 刑法第三百七十八
 條第三百七十九條
 第二項第三百八十
 條ノ害ヲ被リタル

ヲ知ラシメ漸ク進テハ有機化學ノ大意ヲ授
 け其實験ニ基クヘキハ猶物理ニ於ルカ如シ
 一經濟 總論、生財、配財ヨリ貿易、貨幣、銀
 行、租稅ニ及ホシ凡ソ理財ニ關スル要旨ヲ
 授ケ事實ニ考証シテ活用セシムルヲ要ス
 一記簿 帳簿ノ種類記入ノ方法ヲ明ニシ單式
 複式ノ法ヲ熟知セシメ實用ニ適應セシムヘ
 シ
 一本邦法令 現今必須ノ法律規則ノ大要ヲ知
 ラシメ務テ法令ニ乖戾セシムルナキヲ要ス
 一圖書 曲線、直線、單形等ヨリ始メ實物臨寫
 ニ及ホシ稍進テハ用器畫法ヲ授クヘシ凡圖
 畫ハ意匠精密、陰影其法ニ適セシムルヲ要ス

モノナリト確認仕
 候間治罪法第九十
 三條ニ據リ此段告
 訴仕候以上
 明治何年
 何月何日
 何府(縣)何國何
 郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)
 士族(平民)
 告訴人 何、誰印
 何地輕罪裁判所
 檢事氏名殿
 強取人ノ住所姓名
 分明ナル片ハ容貌
 等ヲ記スルニ及ハ
 ス其住所姓名ヲ記

一習字 執筆、運筆ノ法ヨリ次ニ楷、行、草ニ
 及ホシ稍進テハ細字ノ速寫ヲ授クヘシ
 一體操 整容術ヨリ徒手及器械運動ヲ授ケ務
 メテ體軀ノ健全ナラシムルヲ要ス
 第二章 試驗規則
 第一條 試驗ヲ分チテ入學、臨時、學期ノ三種ト
 ス
 第二條 入學試驗ハ其志願者ノ學力ヲ試ミ及落
 キツテヲ判スルモノトス
 第三條 臨時試驗ハ每學期中(即六)二回不時ニ
 學業ノ進否ヲ試ミ座次ヲ進退スルモノトス
 第四條 學期試驗ハ每學期ノ末ニ至リ一學期中
 脩業セシ學科ノ熟否ヲ試ミ其階級ヲ定ムルモ

藏スヘシ

物品ノ代價ハ一々現時ノ相場ヲ記入スルヲ正當トス
辨明書上申請等ハ概テ第一款ニ據ルモノナリトス
此ノ告訴ハ私訴ヲ附帶セスシテ別ニ私訴スルモノナリ
宜シク私訴ノ章款ヲ參看スヘシ

第四款

現行犯准現行犯
第六 治罪法第百

ノトス

第五條 各等毎科定點ヲ一百トシ各科五十以上
總科平均點六十以上ヲ得ルモノトス
但讀書作文ハ二學科ト見做シ其評點各一百

トス

第六條 脩身ハ其定點四分ノ一ヲ平素ノ行狀點
ニ充テ其良否ヲ判シ之ヲ加減スヘシ

第七條 學期試驗ノ採點ハ第一回及第二回ノ臨時試驗各學科ノ平均點ヲ合算シ之ヲ二等分シテ先ツ各學科ノ平均點ヲ得而メ之レニ學期試驗ノ各學科平均點ヲ加ヘ再ヒ之ヲ二等分シテ各學科ノ成點ヲ得ヘシ

入學試驗

第八條 入學試驗ノ科目左ノ如シ

- 一 講讀 十八史略
- 一 作文 近体文カタマツ 手簡文テウワン
- 一 算術 算サン記數法ヨリ比例迄
- 一 習字 楷。行。草
- 一 地理 小學地誌 一二
- 一 歴史 國史攬要
- 一體格 健康ニシテ已ニ痘瘡ウツカハセシモノ

但問數時間。採點法ハ臨時試驗ニ準ス
臨時試驗 學期試驗以下略ス

第三章 入學規則

第一條 入學生徒ハ品行端正。體質壯健。年齡滿

六條ノ場合ニ於テ告訴スルモノハ派テ前三款ニ准シテ可ナル可シ

第二章 告發

告訴ハ被害者ヨリ爲スモノナレモ告發ハ何人ニヨラス罪犯アルコトヲ知りタルトキニ爲スモノナリ其區別亦タ告訴ト政テ異ナラス

第七 故ニ一々文例ヲ示サス只左ニ

一例ヲ示シテ聊カ
告訴ト異ナルヲ
明ニスルノミ

告發狀

何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)

何ノ誰

何ノ誰

何ノ誰

右ノ者等首魁トナ
リ政府ヲ顛覆セン
ト欲スル不穩ノ舉
動有之ト認知候間
今般告發スル要領

十二年以上ニシテ小學中等科卒業以上ノ學力
アル者タルヘシ

第二條 入學ハ毎年二月九月ノ二期トス

第三條 入學ヲ願フ者ハ第一號及ヒ第二號書式
ニ因リ願出ヘシ

第四條 入學許可ノ上ハ保證狀(第三號書式)ヲ差出サ
シム

但保證人ハ學校接近ノ郡區在籍(コセキノアル)丁年(チハダ)
以上ノ戶主ニシテ且相當ノ身元(タイン)アル者ニ
限ル若轉住(テ)其他保證(シ)ニ關係スル事故ヲ
生スル時ハ其旨ヲ届出ヘシ

第五條 受業用書籍器械等ハ自辨タルヘシ

第六條 生徒在學中止ヲ得サル事故アルニ非レ

左ノ如シ

事實

云々(内亂ヲ起サ
ントスル企アルコ
ノ順ヲ追フテ綿密
ニ記載スヘシ)

証據

云々(其不穩ニ關
係アル書翰運判帳
倣文凶器等アラハ
漏サス記載シテ一
々其説明ヲ付スヘ
シ
右ノ次第ナルニ付
キ被告等ハ刑法第

ハ半途(ウチ)ヲ安リニ退學ヲ許サス

第七條 退學ヲ乞フ者ハ其由ヲ詳記シ本人保證
人連署(レン)ノ上願出ヘシ

第八條 在學中病氣怠惰(タロ)等ニシテ到底成業(トナ)
ツツノ目的ナシト認ムル者ハ退學セシムヘシ
(第一號ノ書式)

入學願

私儀御校ニ入學志願ニ付御試驗ノ上入校御許可
被下度此段履歷書相添奉願候也

年月日

本貫族籍(寄留人ナレハ寄留
所ヲモ記載スヘシ)

戶主或ハ何誰子弟

姓名印

府立何中學校御中

(第二號ノ書式)

履歷

本貫族籍(寄留人ナレハ寄留所ヲモ記載スヘシ)

戸主或ハ何誰子弟

姓名印

生誕年月

何年何月ヨリ何年何月迄何所誰ニ就キ何學修業又ハ何所何學校ニ於テ何々卒業云々

年月日

(第三號ノ書式)(用紙證券界紙)

保証狀

本貫族籍(寄留人ナレハ寄留所ヲモ記載スヘシ)

百二十一條第一ノ罪犯タルヲ確認仕候ニハ捨置カタク治罪法第九十七條ニ據リ此段告發仕候以上明治何年何月何日何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)何ノ誰印何地輕罪裁判所檢事氏名殿其他辨明書上申書

戸主或ハ何誰子弟

姓名

年齢

右今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御校則爲相守候ハ勿論其他本人身上ニ生スル百般ノ事故悉皆引受可申依テ後証如斯候也

何府縣下何郡區何町何番地

保証人 姓名 印

年月日 府立何中學校御中

府立師範學校規則

甲第百十九號布達抄錄 明治十五年十一月七日

府立師範學校規則別冊之通改正候條此旨布達候事

等ハ皆テ告訴ノ例ニ准スルモノトス告發ハ多クハ相當官吏ノ爲スヘキモノニテ人民ノ爲ス丁ハ甚タ少キモノナルヘケレモ若シ人民ニテ之レヲ爲サント欲セハ宜シク注意シテ過失ナキヲ要スヘシ

第三章

告訴告發ニ通スル

則

告訴ハ代人ニ委任

(別冊)

大阪府師範學校規則

第一章 教則

シテ爲スヲ得ルナリ
 告訴告發ハ願下ヲ爲スヲ得ルナリ
 告訴告發ハ其申立ヲ變更スルヲ得ルナリ

第一款
 代人ニ委任スル告訴告發並願下
 第八 代人ニ委任スルモ其告訴告發狀ノ文例ニ異ナルコナシ只タ其告訴人又ハ告發人ノ住

第一條 本校ハ小學校教員タルニ必須ノ學科ヲ授クル所トス

第二條 師範學科ヲ分チテ初等中等高等ノ三科トス

第三條 初等師範學科ハ修身讀書習字算術地理物理教育學校管理法實地授業及唱歌體操トス但唱歌ハ當分之ヲ欠ク以下之ニ倣フ

第四條 中等師範學科ハ修身讀書習字算術地理歷史圖畫生理博物物理化學幾何記簿教育學校管理法實地授業及唱歌體操トス

所姓名ヲ左ノ如ク書シ委任狀ヲ與フルノ差アルノミ云々

明治何年
 何月何日
 何府縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住寄留士族平民何ノ誰代人
 何府縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住寄留士族平民
 告訴(告發)代人
 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 檢事氏名殿

第五條 高等師範學科ハ修身讀書習字算術地理歷史圖畫生理博物物理化學幾何代數經濟記簿本邦法令心理教育學校管理法實地授業及唱歌體操トス

第六條 本校ノ修業年限ハ初等師範學科ヲ一年トシ中等師範學科ヲ二年半トシ高等師範學科ヲ四年トス

第七條 授業時限ハ一年三十六週一週三十一時(上曜日二時間ヲ算入セス)

第八條 年中授業時間期限左ノ如シ
 自九月一日 午前八時始業午後二時終業
 自十一月一日 午前八時始業午後二時終業
 自一月一日 午前九時始業午後三時終業
 自三月一日 午前八時始業午後二時終業
 自五月一日 午前八時始業午後二時終業

第九 願下ヲ爲ス
文例左ノ如シ
但三通ヲ要ス

告訴狀御下戻願

何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
被告人 何ノ誰
右ノ者ニ對シ擅ニ
人ヲ逮捕シ且監禁
シタル罪犯アルヲ
以テ明治何年何月
何日御衙へ告訴ニ
及ヒ置候處被告人
ト示談ノ上私和相

自六月一日 午前七時始業正午十二時終業

但休業ハ日曜日祭日祝日夏期(自八月一日至全三十一日)冬
期(自十二月廿五日)トス臨時休業ハ其時々之ヲ
揭示スヘシ

第九條 凡ソ師範學科ヲ授クルニハ徒ヲニ書籍
ニ拘泥セス又漫リニ高尚ニ馳セス務テ日用ニ
適切ナランコヲ要ス

第十條 修身ハ倫理綱常之大道ヲ授クルモノニ
シテ聽講講談ノ二トシ聽講ハ仁義禮讓孝悌忠
信之旨意ヲ講授シ講談ハ生徒ヲシテ互ニ教師
ノ位置ニ立チ小學生徒ニ授クヘキ修身ノ講義
及談話ヲ爲サシメ兼テ座作進退應對等ノ禮儀
ヲ授クヘシ

但修身ハ務メテ之ヲ實踐セシムルヲ要ス

調申候間告訴狀御
下戻相成度治罪法
第九十九條ニヨリ
此段願下仕候以上
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
告訴人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
檢事氏名殿

調申候間告訴狀御
下戻相成度治罪法
第九十九條ニヨリ
此段願下仕候以上
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
告訴人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
檢事氏名殿

第十一條 讀書ハ讀方作文ノ二トシ讀方ハ讀法
ヲ正シクシ音訓字義句法章意ヲ明カニシ稍進
テハ言詞ノ活用文章ノ體格等ヲ授ケ務テ文意
ニ通曉セシムヘシ作文ハ假名交リ文書讀文ヨ
リシテ記事論說其他諸般ノ漢文ニ至ル

第十二條 習字ハ行書草書ヨリ楷書ニ至リ執筆
運筆書法及ヒ黑板ノ書方等ヲ授ケテ之ヲ習熟
セシム

第十三條 算術ハ諸則ヲ明ラカニシ數理ヲ覺リ
其推究力ヲ以テ應用活動シ施算精確迅速ナラ
シムヲ要ス

第十四條 地理ハ總論ヨリ本邦并各國ノ地誌ニ

テ「該告發狀ニハ事實相違ノ麻モ有之候間」ト認ムル方ヲ穩當ナリトス尤モ此ノ文意ハ告訴狀願下ニモ適用スヘシ

第二款

告訴告發申立變更第十 申立ノ變更ヲナスニハ左例ノ如シ

告訴變更書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地(住)密留(土)

及ホシ且諳射圖地球儀ニ依リ其熟否ヲ試ミ地文ハ地球ノ組織氣象動物ノ配置等ヲ理會セシム殊ニ本邦地誌ハ詳密ニ授クヘシ

第十五條 歴史ハ本邦建國ノ體制歷世ノ治亂沿革風俗ノ變遷人智ノ開進文運ノ降替今代至治ノ政績ヲ明ラカニシ忠孝節義ノ事跡等ヲ記憶セシメ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養ヒ次ニ万国歴史ニ及ホスモノトス

第十六條 圖書ハ直線曲線單形等ヨリ器具家屋植物動物山水及ヒ寶物臨寫遠近其他伸縮ノ法等ニ及ホシ意匠精密ナルヲ要ス

第十七條 生理ハ總論骨筋肉皮膚ノ構造及消化循環呼吸器等ノ効用及ヒ養生法感覺器神經

族平民

何ノ誰

右ノ者ニ對シ歐打創傷事件ニ付明治何年何月何日告訴仕候處該告訴狀中ノ申立聊カ相違ノ麻有之申候間治罪法第九十九條ニ據リ左ニ變更仕候告訴狀中事實第何項ニ云々右ハ尙ホ熟考スレハ全ク何ヤノ間違ニ御座候間變更仕候云々

等ノ作用ヲ知ラシメ天稟ノ生命ヲ保護スルニ緊要ノ理ヲ解セシム

第十八條 博物ハ動物植物金石ノ名稱分科功用等ヨリ構造形狀性質產地等ニ及ホス凡ソ博物ヲ授クルニハ務メテ浮華ニ流レズ實用ニ供センヲ要ス

第十九條 物理ハ總論物性重熱聽視ノ諸學ヨリ電氣磁氣ニ及ホシ器械ヲ用ヒテ實驗ヲ明示シ原理ヲ覺リ應用ヲ知ラシム

第二十條 化學ハ非金屬金屬ノ諸原素性質分量各元素ノ合變化ノ原理及其功用ヲ知ラシム器械ヲ用ルハ尙物理ニ於ルカ如シ

第二十一條 幾何ハ平面幾何ニ關スル諸定則ヲ

告訴狀中證據第何
 項ニ云々右ハ該件
 ノ證據トナルヘキ
 モノニ無之又ハ該
 説明ノ相違ニ付キ
 云々
 右之通相違無御座
 候以上
 明治何年
 何月何日
 何府(縣)何國何
 郡(區)何町(村)何
 番地(住(寄)留)士
 族(平民)
 告訴人 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 檢事氏名殿

授ケ應用ニ通セシムルヲ要ス
 第二十二條 代數ハ整數四術ヨリ方程式ニ至ル
 其要旨ハ算術ニ全シ
 第二十三條 經濟ハ生財配財及ヒ貿易ニ關スル
 經濟ノ要旨等ヲ講究シ事實ニ考証シテ活用セ
 シムルヲ要ス
 第二十四條 記簿ハ帳簿ノ種類記入ノ方法ヲ明
 ニシ單式ノ法ヲ熟知セシメ實用ニ當リ錯誤ナ
 カラシムルヲ要ス
 第二十五條 本邦法令ハ日用必須ノ法律規則ノ
 大要ヲ知ラシメ成法ニ違背セシメサルヲ要ス
 第二十六條 心理ハ智情意等ノ大別ヨリ其作用
 ヲ知ラシムルヲ要ス

右ハ告發狀ノ變更
 ニモ適用スヘシ
 第四章 私訴
 私訴ハ民事原告人
 即チ被害者ノ爲ス
 ヘキモノナリ
 私訴ハ告訴ト共ニ
 申立ルヲアリ又別
 ニ申立ルヲアリ
 私訴ハ民事裁判所
 ニ爲スモ刑事裁判
 所ニ爲スモ差支メ
 ナシ故ニ民事裁判
 所ニ爲ス私訴ハ民
 事ノ部ニ讓ルヲ見

第二十七條 教育學ハ兒童扱ノ心得方ニ育ノ大
 要ヨリ教育上ノ法令規則等ヲ知ラシメ學校管
 理法ハ學校ノ編制生徒ノ管理校簿ノ整頓諸表
 ノ編製等一校ノ管理上必要ナルモノヲ授ク
 第二十八條 實地授業ハ附屬小學校ニ就キ小學
 各等科ノ授業法ヲ練習セシム
 第二十九條 體操ハ整容術徒手運動器械運動ヲ
 授ケ身體康健ナラシムルヲ要ス
 第二章 試驗規則
 第一條 試驗ヲ分テ入學臨時學期請求滿期ノ五
 種トス
 第二條 入學試驗ハ其志願者學力ヲ試ミ及落ヲ
 判スルモノトス

ヘシ
刑事裁判所ニ爲ス
私訴ハ公訴ニ附帶
シテ爲スモノナレ
ハ即チ本章ニ載ス
ルモノナリ
第一款
附帶ノ私訴
第十一 強盜ノ爲
メ害ヲ被リシ者ノ
私訴ノ文例左ノ如
シ被告人ノ住所姓
名不分明ナルモノ
ニカ、ル
何府(縣)何國何

第三條 臨時試験ハ每學期中二回不時ニ之ヲ施
行シ學業ノ進否ヲ試ミ且座次ヲ進退スルモノ
トス
第四條 學期試験ハ每學期ノ末ニ至リ一學期中
修業セシ學科ノ熟否ヲ試ミ其及落ヲ判スルモ
ノトス
第五條 請求試験ハ本校ヘ入學セシテ直ニ小
學教員タラント欲スル者ノ學力ヲ試験シ合格
ノ者ニハ初等中等若クハ高等師範學科卒業証
書ヲ授與スルモノトス
第六條 滿期試験ハ卒業證書ノ年限滿期ニ因リ
更ニ小學教員タラント欲スル者ノ學力ヲ試験
シ合格ノ者ニハ初等中等若クハ高等師範學科

郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
民事原告 何ノ誰
強盜ノ贓物還給及
損害差額ノ私訴
被告人
住所姓名不知
一何品何々
此代價何圓
一何品何々
此代價何圓
合計何圓
此代價合計何圓
一土藏修葺料金何
圓 但云々

卒業證書ヲ授與スルモノトス
第七條 學期試験ノ中各等科最終ノ學期試験ニ
及第セル者ヲ以テ初等中等若クハ高等師範學
科卒業トス
第八條 各等毎科ノ定點ヲ一百トシ每學科五十
以上總計平均六十以上ヲ得ルモノヲ及第トス
但讀書作文ハ二學科ノ點數ヲ以テス
第九條 修身科ハ其定點四分ノ一ヲ平素ノ行狀
點ニ充テ其良否ヲ判シ之ヲ加減スヘシ
第十條 學期試験ノ採點法ハ第一回及第二回ノ
臨時試験各學科平均點ヲ合算シ之ヲ二分シテ
先ツ各學科ノ點數ヲ得而シテ學期試験ノ各學
科平均點ニ合算再ヒ之ヲ二分シテ各學科ノ成

一戸前云々
但云々
一何々
但云々
此金合計何圓
右民事原告人何ノ
誰申上候私儀過ル
明治何年何月何日
強盜ノ爲メニ害ヲ
蒙リ明治何年何月
何日何地輕罪裁判
所檢察官ニ告訴仕
候處尙其ノ贓物ノ
還給損害ノ賠償ヲ
モ奉願度今般民事

點ヲ得
入學試驗

第十一條 入學試驗ノ科目左ノ如シ
一 講讀 國史略 十八史略
物理楷梯 日本地誌略
一 作文 近体文 手簡文
一 算術 珠算 加減 乘除
筆算記數法ヨリ分數法マテ
一 習字 楷行草
一 体格 健康ニシテ痘瘡セシモノ

第十二條 問題ハ各學科五問トシ一時間ヲ限ル
但問題ハ難易ニ因リ増減スルコアルヘシ以
下各試驗都テ之ニ倣フ

第十三條 合格ノ者ハ體格ヲ檢査シテ及第セシム

原告人ト爲リテ私
訴仕候間還給賠償
相成候様致度治罪
法第百十條ニ據リ
此段申立候以上
明治何年
何月何日
右
何ノ誰印
何地輕罪裁判所
豫審掛
判事補氏名殿
他ノ例モ大抵右ニ
准スルモノニハ茲
ニ略セリ

第四章 入學規則 (以下略ス)

第一條 本校ニ入學セント欲スル者ハ在學中家事ニ關係ナク且品行端正體質壯健年齡十七年以上ニシテ小學中等科卒業以上ノ學力アル者タルヘシ
但時宜ニ因リ十五年以上ノ者ハ入學ヲ許スコアルヘシ

第二條 入學ヲ願フ者願書(第一號書式)并ニ履歷書(第二號書式)ヲ以テ本校ニ願出スヘシ

第三條 成規ノ試驗合格ニヨリ入學許可ノ上ハ保証狀(第三號書式)ヲ差出サシム
但保証人ハ可成學校接近ノ郡區在籍丁年以

○府立師範學校規則

第二款

私訴ノ願下

第十二 強盜ノタ

メ害ヲ被リシモノ

私訴ヲ爲セシ後其

ノ願下ヲナスヘキ

一例ヲ示ス

強盜ノ贓物還給及

損害賠償ノ私訴狀

御下戻願

私儀明治何年何月

何日強盜被害ノ件

ニ付民事原告人ト

ナリテ贓物ノ還給

損害ノ賠償ヲ公訴

上ノ戸主ニシテ且相當ノ身元アル者ニ限ル
若シ轉任其他保証ニ關係スル事故ヲ生スル
事ハ其旨ヲ届出可シ

第四條 入學生徒ハ寄宿通學適宜タルヘシ

但貸費生徒ハ寄宿セシムルモノトス

第五條 學資ハ貸給ト自辨ノ二種トス

第六條 書籍器械自辨ハ勿論ナレモ事情ニ由テ

ハ貸與スルコアルヘシ

第七條 生徒在學中止ヲ得サル事故アルニ非サ

レハ半途退學ヲ許サス

第八條 在學中病氣怠惰等ニテ到底成業ノ目的

ナシト認ムル者ハ退學セシムヘシ

(第一號書式)

入學願

私儀當府下小學教員志願ニ付御試驗ノ上入學御
許可被下度此段奉願候也

年月日

本貫族籍 (寄留人ナレハ寄留
所ヲモ記載スヘシ)

戸主或ハ何誰子弟

姓名印

府立何師範學校御中

(第二號書式)

履歷

本貫族籍 (寄留人ナレハ寄留
所ヲモ記載スヘシ)

戸主或ハ何誰子弟

姓名

生誕年月

ニ附帶シテ私訴仕

候處右ハ私訴狀中

聊カ相違ノ廉モ有

之候間一應御下戻

相成度治罪法第百

十一條ニ據リ此段

願下候以上

明治何年

何月何日

何府(縣)何國何

郡(區)何町(村)

何番地住(寄留)

士族(平民)

何ノ誰印

何地輕罪裁判所

稟審掛

判事補氏名殿

第三款

私訴ノ變更

第十三 事件ヲ示

サスシテ只タ私訴

ヲ變更スヘキ一例

ヲ示ス

何々ノ私訴變更事

私儀何々ノ件ニ付

明治何年何月何日

民事原告人トシテ

私訴仕候處該私訴

中變更仕度庶有之

候間左ニ變更仕候

何年何月ヨリ何年何月迄何所誰ニ就キ何學修業
云々

(第三號書式(但料紙証券界紙))

保證狀

本貫族籍(寄留人ナレハ寄留
所ヲモ記載スヘシ)

戸主或ハ何誰子弟

姓名

年齢

右今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御校則
爲相守候ハ勿論卒業ノ上ハ當府下何地ヲ撰ハス
小學ニ從事可爲致其他本人身上ニ生スル百般ノ
事故悉皆引受可申依テ後証如此候也

大阪府下郡(區)町(村)番地住

年月日

保証人姓名印

府立何師範學校御中

官立醫學校通則

文部省第四號達 明治十五年五月

醫學校通則

第一章 總則

第一條 醫學校ハ此通則ニ遵ヒ醫學ヲ教授スル
所トス

第二條 醫學校ハ之ヲ分テ甲乙二種トス甲種ハ
尋常ノ醫學科ヲ教授シ以醫師ノ具成ヲ圖リ上
款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス、乙種ハ簡易
ノ醫學科ヲ教授シ以テ醫師ノ速成ヲ圖ルトキ
若クハ甲種ヲ設置スル能ハサルトキニ於テ下

一何々(私訴中)
請求金ト異ナル廉
アラハ其廉々ノ理
由ヲ付シテ記載ス
ヘシ)
一何々(贓物ノ數
及ハ其代價又ハ
其種類ノ私訴狀ト
相違スル廉アラハ
其廉々ノ理由ヲ付
シテ記載スヘシ)
右治罪法第百十一
條ニ據リ變更仕候
ニ相違無御座候以
上

明治何年

何月何日

何府(縣)何國何

郡(區)何町(村)

何番地住(寄留)

士族(平民)

民事原告人何ノ誰印

何地轉罪裁判所

豫審掛

判事補氏名殿

被告人住所姓名分

明ナルトキハ冒頭

ニ記載スヘシ

第四款

私訴ノ棄權

款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス

第三條 醫學校ニ於テハ臨床實驗ノ用ニ供スルニ足ルヘキ病院ノ準備アルヲ要ス。

上款

第二章 學科目

第四條 甲種醫學校ノ學科ハ少クトモ左ニ掲クル諸目トス

物理學 化學

動物學

植物學 解剖學

組織學

生理學 病理學

藥物學

內科 外科

眼科

產科 內科臨床講義

外科臨床講義

衛生學 裁判醫學

第三章 修業年限日數及時數

第五條 甲種醫學ノ修業年限ハ四箇年以上トス

第六條 甲種醫學ノ修業日數ハ少クトモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス

第七條 甲種醫學校ノ修業時間ハ一週二十四時ヲ以テ度トス

第四章 入學生徒ノ資格

第八條 甲種醫學校ニ入學スル生徒ハ品行端正體質強健ニシテ年齡十八年以上トス

第九條 甲種醫學校ニ入學スル生徒ハ初等中學科卒業以上ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ初等中學科以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

願下ハ一タヒ爲テ再ヒ私訴スルコトヲ得レハ棄權ハ一タヒ爲テ再ヒ私訴スルコト能ハサルナリ
第十四 事件ヲ示サシテ只タ私訴ヲ棄權スヘキ一例ヲ示サン
何々ノ私訴棄權書私儀何々ノ件ニ付明治何年何月何日民事原告人トシテ私訴仕候處右ハ棄權仕候間該事件ニ

對シ再ヒ私訴仕リ
不申候依テ此段申
立候以上
明治何年何月何日
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
民事原告人
何ノ誰印
何地輕罪裁判所
豫審掛
判事補氏名殿
被告人ノ住所姓名
分明ナルトキハ冒
頭ニ記載スヘシ
第五款
私訴ノ願下ヲ爲シ

和漢文
算術
代數
幾何
物理學
化學
動物學
植物學

第五章 教員ノ資格員數

第十條 甲種醫學校ノ教員中少クトモ三名ハ東
京大學ニ於テ醫學士ノ學位ヲ得タル者ヲ以テ
之ニ充テ主トシテ重要ノ學科ヲ分擔セシムヘ
シ
但他ニ相應ノ學力ヲ有スル者アルトキハ文
部卿ノ認可ヲ經テ本文醫學士ニ代フルコト
ヲ得

下款

第六章 學科目

第十一條 乙種醫學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目

トス

物理學	化學	解剖學
生理學	藥物學	內科
外科	眼科	產科
內科臨床講義	外科臨床講義	

第七章 修業年限日數及時數

第十二條 乙種醫學校ノ修業年限ハ三箇年トス
但此年限ヲ一年以內増加スルコトアルヘシ

第十三條 乙種醫學校ノ修業日數及授業時間ハ

第六條及第七條ニ準ス

第八章 入學生徒ノ資格

第十四條 乙種醫學校ニ入學スル生徒ハ其品行

タル後再訴
第十五 強盜ノタ
メ害ヲ被リシモノ
私訴ヲ爲セシ後チ
願下ヲ爲シ再ヒ私
訴ノ申立ヲ爲スヘ
キ一例ヲ示ス
何府(縣)何國何
郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
民事原告人何ノ誰
強盜ノ贓物還給及
損害賠償ノ再私訴
被告人住所姓名
不明
一何品何々

此代價何圓
 一何品何々
 此代價何圓
 合計何圓
 此代價合計何圓
 一土藏修葺料金何圓 但云々
 一戸前云々
 但云々
 一何々 但云々
 此合計金何圓
 右民事原告人何ノ
 誰申上候私越過ル
 明治何年何月何日
 強盜ノ爲メニ害ヲ

體質年齡總テ第八條ニ準ス
 第十五條 乙種醫學校ニ入學スル生徒ハ左ニ掲
 クル科目ニ就キ概テ初等中學校ノ學力ヲ有ス
 ル者タルヘシ
 和漢文 算術 物理學
 但此他第九條ニ掲クル諸科目中一科若クハ
 數科ニ就キ本文ノ學力ヲ要スルコトアルヘ
 シ
 第九章 教員ノ資格員數
 第十六條 乙種醫學校ノ教員中少クトモ一名ハ
 總テ第十條ニ準スヘモノトス
 陸軍々醫講習生假規則
 達乙第七拾八號

被リ明治何年何月
 何日何地輕罪裁判
 所檢察官ニ告訴仕
 尙明治何年何月何
 日民事原告人トナ
 リテ私訴仕候處聊
 カ相違ノ廉有之候
 ニ付明治何年何月
 何日願下仕尙改テ
 今般私訴ニ及ヒ申
 候間右還給賠償ト
 毛奉願度治罪法第
 百十一條第二項ニ
 據リ此段申立候以
 上

陸軍々醫講習生假規則別冊之通相定候條此旨相
 達候事
 明治十六年七月十日 陸軍卿大山巖
 (別冊)
 第一條 軍醫講習生ハ陸軍々醫官ニ出身志願ノ
 者ヲ撰拔シ東京陸軍病院ニ於テ之ニ要用ナル
 學術ヲ教授シ卒業ノ上ハ三等軍醫若クハ軍醫
 試補ニ任シ其職務ヲ奉セシムルモノナリ
 第二條 講習生ハ看護長看病卒若クハ華士族平
 民中醫術開業免狀ヲ所持スル者ニシテ檢査定
 格ニ合スル者ヲ以テ之ニ充ツ
 第三條 講習生ハ入學ノ日ヨリ陸軍一定ノ規則
 ヲ遵奉セシム故ニ入學後ハ決シテ他志ナク陸

明治何年何月何日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

豫審掛

判事補氏名殿

第六款

代人ニ委任スル

私訴

第十六 私訴ヲ代

人ニ委任スル住所

姓名ノ文例ハ告訴

告發ヲ代人ニ委任

スルト同一ニシテ

即チ第八文例ノ如

シ

軍ニ從事スルノ誓約ヲナサシム

第四條 講習生修學ノ期限ハ五ヶ月トス然レモ

疾病其他ノ事故ニ由リ豫定ノ學術ヲ修得シ能

ハサル者ハ尙ホ若干月ヲ延期スルコトアルヘシ

第五條 講習生修學中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退

學スルコトヲ許サス然レモ病氣若クハ行狀不正

或ハ怠惰ニシテ卒業ノ目途ナキモノハ退學セ

シム可シ但看護長看病卒ヨリ入學セシ者ハ軍

醫部下士若クハ卒トナシ定期ノ年限前役及生徒修

通算 ヲ服役セシム

第六條 講習生ハ官費生ト自費生トノ二種トス

其官費生ハ修學ノ費用及ヒ居宅衣食ノ料トシ

テ若干ノ手當金ヲ給シ其自費生ハ一切ノ費用

第二編 被告

派テ刑事ニ關シテ

被告ヨリ差出ス所

ノ書面ハ印紙貼用

ニ及ハス只白紙ニ

認ムヘシ

第一章 自首

刑法第八十五條ヨ

リ第八十七條ニ至

ル自首ノ條項トハ

聊カ異ナル所アル

カ如シト雖モ只大

同少異アルノミ

第十七 左ニ賭博

ニ關スル自首ノ一

總テ自辨タルヘシ但修學上ノ器械物品ハ官給トス

第七條 講習生ハ私宿ニ在テ日々東京陸軍病院

ニ通學シ軍醫ノ學術其他ノ事ヲ研究セシム但

時宜ト因リ軍醫ノ手術ヲ補助セシムルコトアル

ヘシ

第八條 講習生ハ學期ノ終リニ於テ試験ヲ行ヒ

及第スルモノハ之ニ優等及ヒ通常ノ二種ニ區

別シ各卒業證書ヲ授與ス

第九條 講習生ハ試験ヲ受ルノ後優等卒業証ヲ

得タル者ハ三等軍醫ニ通常卒業証ヲ得タル者

ハ軍醫試補ニ任スルヲ例トス但優等卒業証ヲ

得ル者ト雖モ修學中屢懲罰ノ所斷ヲ受ケシ者

例ヲ示ス

自首狀

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)
 自首人 何ノ誰
 右ハ私儀明治何年何月何日午後第何時頃何郡何村某居宅ニ於テ何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)某外姓名不知者等七名ト共ニ金錢ヲ賭シテ博奕仕

等ハ軍醫試補ニ任スルコアルヘシ

第十條 講習生ノ召募ハ陸軍卿之ヲ陸軍部内及
 府縣ニ達シ其檢査ハ檢査格例ニ準據シ軍醫本部ニ於テ之ヲ爲スヲ例トス故ニ軍醫本部長ハ所要ノ人員並ニ召募ノ時期等ヲ豫メ陸軍卿ニ上申スヘシ但時宜ニ依リ在東京ノ者ノミヲ召募セシムルコアルヘシ

第十一條 講習生召募ノ達アレハ陸軍部内ニ在テハ近衛鎮臺又ハ各官廨ニ於テ其志願者ヲ取調ヘ左式ノ書面ニ本人ノ名簿寫並ニ醫術開業免狀寫下士ニ在テハ外ニ考科表ヲ添ヘ軍醫本部ニ送附シ各府縣ニ在テハ之ヲ管下ニ達シ志願者ヲシテ第十二條ノ手續ヲナサシムヘシ

軍醫講習生入學志願人名

第十二條 華士族平民ヨリ軍醫講習生志願ノ者ハ左式ノ願書ニ履歷書及ヒ醫術開業免狀寫ヲ添ヘ本籍若クハ寄留地府縣ノ奥書証印ヲ受ケ直ニ軍醫本部ニ差出スヘシ
 願書式(用紙美濃白紙以下履歷書之ニ同シ)
 軍醫講習生入學願(略之)

第十三條 看護長看病卒及ヒ華士族平民共檢査ノ定格左ノ如シ

第一則 年齡三十歳以下ノ者

第二則 体格

第三則 學科

第十四條 華士族平民ヨリスル者檢査合格ノ上

候處今日ニ至リ始メテ良心ノ尤ムル所トナリ眞ニ悔悟ノ念ヲ起シ法網ヲ遁ル、ニ忍ヒス今茲ニ自首仕候間刑法第八十五條ニ據リ御寛大ノ御處分奉仰候以上
 明治何年何月何日
 右 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 檢事氏名殿
 (又ハ)
 何地警察署長
 警部氏名殿

○陸軍々醫講習生假規則

第十八 右自首ノ
理由ヲ明ラカニセ
ント欲セハ左ノ如
キ理由書ヲ差出ス
ヘシ

賭博事件自首
理由書

何府縣何國何
郡區何町(村)何
番地住(寄留)士
族(平民)
自首人 何ノ誰
右自首人何ノ誰ハ
明治何年何月何日
奉呈セシ自首狀ニ
掲載セシ如ク賭博

入學ヲ命スル者ハ父兄親族其他一家ヲ成ス身
元慥ナル者二名東京居住ノ
者ニ限ルヲ身元引受人ト爲シ
官費ノ者ハ左式第一號自費ノ者ハ第二號ノ入
學証書ヲ差出サシム

第一號証書式(用紙證券界紙第二
號証書之ニ同シ)

軍醫講習生入學証書

第二號証書式

軍醫講習生入學証書

(誓文牒略之)

電機通信技術生徒手續

官報第七拾七號

電信局技術生徒募集廣告

電機通信技術生徒試験ノ上入學差許候條年齡十

ヲ爲セシモノナル
カ尙其願末順序ヲ
明カナラシメンタ
メ左ニ開陳仕候
云々(賭博場ニ入
リシ願末ヨリ所持
金ノ遺ヒ拂ヒ賭場
ヲ去リシ願末等ヲ
明細ニ記載スヘシ)
右之通相違不申上
候以上
明治何年何月何日
右 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
檢事氏名殿

五歳以上滿廿五歳以下ニシテ志願ノ者ハ左ノ書

式ニ依リ願書ヲ汝止修技校ヘ差出スヘシ

願書書式(美濃紙ニツ折正副二通)

電機通信技術生徒入校願

私儀兼テ電機通信技術志願ニ付今般入校修業仕
度候間御試験ノ上御許可被成下度此段奉願候也

宿所東京府下何(區郡)何(町村)何番地
(寄留某方同居)何(府縣)何國何(區郡)何
(町村)何番地(華士族平民)某(長次男兄
弟附籍)

年月日

姓名 印

當何月何年何ヶ月

電信局長某殿

試験科目

(又ハ)

何地警察署長

警部氏名殿

自首狀並ニ自首理由書トモ一通宛差出シテ可ナルヘシ

第二章 豫審中

豫審中ニ被告人ヨ

リ差出ス書面ハ多

カラス只タ上申ト

請求トニ外ナラス

第一款 上申書

第十九 陳述ヲ變

更増減スル上申書

ノ文例ヲ左ニ示ス

一體質

一筆蹟

一作文

一和漢文讀方

一和文(英佛)譯

一(英佛文)和譯

規則摘要

一體質検査學科試験合格ノ者ハ凡三週間自費ヲ以テ通學ヲ許シ電信字號ヲ暗誦セシメ後和歐文ノ送信ヲ試ミ優等ノ者ハ入校ヲ許シ級外修技生トナス

一修業中ノ給料ハ定規ノ試験ヲ遂ケ其優劣ニ依リ左ノ等級ニ應シテ支給ス

級外修技生

一ヶ月

四圓ノ割ヲ以テ日給

三級修技生

一ヶ月

四圓五拾錢ノ割ヲ以テ日給

二級修技生

一ヶ月

五圓ノ割ヲ以テ日給

一級修技生

一ヶ月

六圓ノ割ヲ以テ日給

陳述ヲ變更スル

上申書

住所身分

被告人 何ノ誰

右被告ハ富籤^{トミ}ヲ以テ利益ヲ獲得スル事件ニ付明治

何年何月何日御訊

問ノ際ニハ病後ニ

テ精神恍惚ノ間ニ

陳述仕候ユヘ後日

陳述書ノ原本ヲ閱

讀スルニ數多ノ相

違有之候間別紙ニ

其變更ノ次第ヲ列

一在校中教課書ハ貸付シ筆墨紙等ハ給與スヘシ

一生徒ノ教育ハ凡十二ヶ月ヲ經テ卒業スル者ト

ス卒業ノ上ハ實務ニ從事セシメ爾後工術等級

表ニ照シテ其等級ヲ進ムヘシ

一卒業ノ月ヨリ滿五ヶ年間電信局ニ勤仕スルヲ

期約トス此期約年限中(退校辭職)願出ルカ又

ハ官ヨリ(退校免職)申付ルルハ在校中ノ學費

金ヲ償納セシムヘシ

右ノ外詳細ノ規則ハ汝止修技校ニ就テ承知スヘシ

明治十七年

電信局長石井忠亮

官立藥學校通則

藥學校通則

明治十五年七月
文部省第六號達

○官立藥學校通則

裁シ治罪法第百五

十二條ニヨリ此段

上申仕候以上

明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

豫審掛

判事氏名殿

別紙ハ

陳述變更ノ理由

明治年月日調書

第何項 云々

右ハ何々ノ理由ナ

ルヲ以テ左ノ如ク

變更何々云々

第一章 總則

第一條 藥學校ハ此通則ニ遵ヒ藥學ヲ教授スル所トス

第二條 藥學校ハ之ヲ分テ甲乙二種トス甲種ハ尋常ノ藥學科ヲ教授シ以テ藥劑師ノ具成ヲ圖リ上款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス乙種ハ簡易ノ藥學科ヲ教授シ以テ藥劑師ノ速成ヲ圖リ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス

上款

第二章 學科目

第三條 甲種藥學校ノ學科ハ少クトモ左ニ掲クル諸目トス

物理學

化學

動物學

植物學

金石學

藥用植物學

分析化學

藥品學

製藥學

毒物學

藥物試驗法

調劑學

此他英佛獨語中ノ一語

第三章 修業年限日數及時數

第四條 甲種藥學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第五條 甲種藥學校ノ授業日數ハ少トモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス

第六條 甲種藥學校ノ授業時間ハ一週二十四時ヲ以テ度トス

第四章 入學生徒ノ資格

第七條 甲種藥學校ニ入學スル生徒ハ品行端正體質強健ニシテ年齡十八年以上トス

第何項 云々

右ハ何々ノ理由ナ

ルヲ以テ左ノ如ク

變更何々云々

以上

第二十 豫審訊問

ヲ請フ上申書ノ例

ハ

上申書

住所族籍

被告人 何ノ誰

右ハ私儀詐偽取財

被告事件ニ付明治

年月日御召喚相成

一廣御訊問アリシ

末御拘留相成明治
年月日保釋ヲ以テ
出艦仕候然ル處最
初御召喚ノ上御訊
問後今日ニ至リ何
百何十日ニ何成モ
一度ノ御訊問モ無
之差向キ陳述仕度
仔細モ御座候間何
卒至急御喚問相成
度此段上申仕候以
上
明治年月日
右 何ノ誰印
何地輕罪裁判所

第八條 甲種藥學校ニ入學スル生徒ハ初等中學
科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ
掲クル科目ニ就テ初等中學科ノ學力ヲ有スル
者タルヘシ

和漢文 算術 地理
物理學

第五章 教員ノ資格員數

第九條 甲種藥學校ノ教員中少クトモ二名ハ東
京大學ニ於テ製藥士ノ學位ヲ得タル者若クハ
他ニ相應ノ學力ヲ有シ文部卿ノ認可ヲ經タル
者ヲ以テ之ニ充テ主トシテ重要ノ學科ヲ分擔
セシムヘシ

下款

豫審掛

判事補氏名殿

第二款 請求書

第二十一 陳述書

謄本下附願ノ例

陳述書謄本

下附願

住所身分

被告人 何ノ誰

右私儀私書偽造被

告事件ニ付明治年

月日御訊問相成候

陳述書謄本御下附

相成度治罪法第百

五十三條ニ據リ此

第六章 學科目

第十條 乙種藥學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目ト

物理學 化學 植物學
藥品學 製藥學 藥物試驗法
調劑學

第七章 修業年限日數及時數

第十一條 乙種藥學校ノ修業年限ハ二箇年トス
但シ此年限ヲ一年以内増加スルコアルヘシ
第十二條 乙種藥學校ノ修業日數及授業時間ハ
第五條及第六條ニ準ス

第八章 入學生徒ノ資格

第十三條 乙種藥學校ニ入學スル生徒ハ品行端

段相願候以上

明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

豫寄掛

判事氏名殿

第二十二 保釋ノ

請求ヲナス文例ヲ

左ニ示ス

保釋願

住所身分

被告人 何ノ誰

右ハ私儀夜間故ナ

ク人ノ住所ヲ侵ス

被告事件ニ付明治

正體質強健ニシテ年齢十六年以上トス

第十四條 乙種藥學校ニ入學スル生徒ハ小學中等科卒業ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

讀書 算術

第九章 教員ノ資格員數

第十五條 乙種藥學校ノ教員中少クトモ一名ハ

東京大學製藥學卒業生(明治十六年以後卒業ノ者)以上ノ學

力アル者ヲ以テ之ニ充テ主トシテ重要ノ學科ヲ擔任セシムヘシ

但東京大學製藥士若クハ製藥學卒業生(同十年以後卒業ノ者)ニアラサル者ヲ以テ本文教員ニ充テ

ントスルトキハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

大學法理文學部入學規則

年月日御拘留相成

爾後謹慎任居申候

然ル處私儀ハ商業

ノモノニシテ金錢

取引上帶ニ紛擾ノ

生シ易キ處如斯數

日間ノ入檻ニテハ

乍チ商業上如何共

致ス可キ様無之次

第二立至リ可申ト

奉存候間何卒保釋

御許可相成度治罪

法第二十條ニ據

リ此段奉願候以上

但保証金ハ御指

示第拾六號 明治十六年二月九日 大阪府

今般各地方中學校ニ於テ初等或ハ高等中學校卒

業ノ生徒ニシテ東京大學法理文學部ニ入ントス

ル志願者ノ爲メニ豫備門本費カカシニ於テ英語學專

脩モツダノ課ヲ設ケ該生徒ヲ入學セシメ候旨東京

大學ヨリ通知有之候條左ノ入學規則ニ依リ志願

ノ者ハ毎年五月十日マテニ郡區役所ヲ經テ當府

學務課ヘ申出ヘシ此旨告示候事

入學規則

一地方中學校ニ於テ初等中學校ヲ卒業シタルモ

ノニテ豫備門本費カカシニ入ラントスレハ先ツ英

語學(譯解ハ此限ニアラス)ヲ除クノ外其學力ヲ邦語トクゴニ

由リテ考試ロシ而シテ之ニ合格セシモノハ豫

揮ニ從ヒ何時ニ
テモ差出可申候
明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

豫審掛

判事補氏名殿

保釋ヲ願出スルノ
事故ハ商業取引上
ニノミ關スルニ非
ス或ハ疾病或ハ父
母ノ重症或ハ職業
上等止ムヲ得サル
ノ事故ヲ明細ニ記
載スヘシ

備門本費ニ於テ尙一年間英語學ヲ專修モツバラセ
シメ試業ノ上本費第二級へ編入セシムルコト
アルヘシ

一高等中學校ヲ卒業シタルモノニテ本學法理文
學部ニ入ラントスレハ先ツ英語學（譯解ハ此限
ニアラス）
ヲ除クノ外其學力ヲ邦語ニ由リテ考試シ而シ
テ之ニ合格セシモノハ豫備門本費ニ於テ尙一
年間英語學ヲ專修セシメ更ニ諸科目試業ノ上
本學法理文ニ學部第一等級ニ編入セシムルコ
トアルヘシ

一右試業ハ豫備門本費内ニ於テ施行スルハ勿論
ノ事ナレトモ初等中學校卒業ノモノニ限り便
宜ヲ計リ入學試業問題ヲ地方官ニ托シ地方官

保釋願ハ二通ヲ要
スルモノナリ
第二十三 保証書
ノ文例左ノ如シ

保証書

住所身分

被告人 何ノ誰

右私儀夜間故ナク
入ノ住所ヲ侵ス被
告事件ニ付御拘留
相成居候處明治何
年何月何日保釋御
許可相成則チ御命
令ノ保証金差出申
候間何時ニテモ御

ヲシテ毎年七月上旬ニ於テ試行シテセシムルコ
トアルヘシ尤其答紙コキヤハ地方官ヨリ直ニ之
ヲ豫備門ニ送致オカリスルコト、シ豫備門ニ於
テハ右答紙コキヤヲ査定ベラシ合格ノ者ヲ地方官
ニ報道ソラスルモノトス

大審院職制

大審院職制 明治十年二月十七日布告

明治八年五月第九拾壹號布告大審院諸裁判所職制
章程同年同月第九拾二號布告控訴上告手續別冊
之通改正候條此旨布告候事

但シ巡回裁判規則判事職制通則ハ刪除候事
(別冊)

長一人 一等判事ヲ以テ之ニ充ツ院長ハ課ヲ分

呼出ニ應シ出廷可
仕依テ治罪法第二
百十條ニ據リ保証
書差出候以上

明治年月日
右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所
書記局御中

第二十四 保釋ヲ
許サレタルニ付キ
警察署ヘノ届書

保釋ニ付御届
住所身分
何ノ誰

右ハ私儀夜間故ナ

チ主任ヲ命シ隨時各廷ニ臨ミ民刑事件ヲ聽理
スルコトヲ掌ル

判事

第一 民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判ノ不法ナル
者ヲ破毀シ及ヒ内外交渉ノ事件重大ナルモノ
並ニ判事ノ犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

第二 死罪ノ案ヲ審閱スルコトヲ掌ル

屬

大審院章程

第一 大審院ハ民事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以
下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法憲ノ統一
ヲ主持スルノ所トス

第二 審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁

ク人ノ住所ヲ侵ス
被告事件ニ付明治
年月日何地輕罪裁
判所豫審判事ヨリ

何地監倉ニ拘留又
ハ收監相成候處明
治年月日保釋御許
可相成即チ何府

(縣)何國何區(郡)何
町(村)何番地ニ離
慎罷在候間此段御
届仕候也

明治年月日
右 何ノ誰印

何地警察署長

判所ニ移シテ之ヲ判決セシム又便宜ニ大審院
自ラ之ヲ判決スルコトヲ得

第三 已ニ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシム
ルノ後其裁判所又大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ
大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス

第四 陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其
裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

第五 各判事ノ犯罪其違註犯ヲ除クノ外大審院
之ヲ審判ス

第六 内外交渉民刑事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七 各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪案ヲ
審閱シ批シ可シテ送還ス其否トスルモノハ更
ニ律ヲ擬シテ還付ス

警部氏名殿

第二十五 保釋中
呼出ニ應セザリシ
井ノ事由書ノ文例
ヲ左ニ示ス

御呼出ニ應セザ
ル事由書

住所身分

被告人 何ノ誰

右私儀夜間故ナク
人ノ住所ヲ侵ス被
告事件ニ付保釋中
昨何日午前第何時
御呼出ニ相成候處
出頭ノ途何國何郡

上等裁判所職制

長一人 勅任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各廷ニ臨ミ
民刑事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

第一 管内ノ控訴ヲ受ケ之ヲ覆審スルコトヲ掌ル

第二 管内死罪ノ獄ヲ判決スルコトヲ掌ル

判事補 事ヲ判事ニ受ケ審判スルコトヲ掌ル

屬

上等裁判所章程

第一 上等裁判所ハ地方裁判ニ服セスシテ控訴
スル者ヲ覆審ス

第二 各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決
シテ大審院ノ批可ヲ取り然ル後原裁判所ニ附

シテ宣告セシム

第二 各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役
罪案ヲ審批ス

地方裁判所職制

長一人 奏任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルコトヲ掌ル他ハ
判事ニ同シ

判事 民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スル
コトヲ掌ル

判事補 事ヲ判事ニ受ケ審判スルコトヲ掌ル

地方裁判所章程

第一 地方裁判所ハ一切ノ民事及刑事懲役以下

何村ヲ流通スル何

川溢水ノタメ道路

ヲ斷チ夫レカタメ

不得止出廷不仕候

間該地戸長ノ保証

書ヲ受ケ此段御届

仕候以上

明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

豫審掛

判事補氏名殿

出廷ニ應セサル事

故ハ川留メニ限ル

ニアラス正當ノ事

由ヲ認メ出スヘシ
 但天變地異ニカ、
 ルモノハ其地ノ戸
 長ノ保証ヲ乞ヒコ
 レヲ添ヘテ差出シ
 又々疾病等ニ罹ル
 モノハ醫師ノ診斷
 書ヲ受コレヲ添ヘ
 テ差出スヘシ
 第二十六 他人ヨ
 リ保釋ヲ願出スル
 申ノ保釋願ハ左例
 ノ如シ

保釋願
 住所身分

ヲ審判ス

- 第二 地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重
トナク皆初審トス
 - 第三 民刑事ノ内外ニ交渉シタル者ハ其輕キハ
直ニ之ヲ裁決シ其ノ重キハ一面之ヲ聽理シ一
面ハ之ヲ司法卿ニ具申スヘシ
 - 第四 死罪ハ審訊シテ文案證憑及ヒ擬律案ヲ具
ヘテ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告ス
 - 第五 終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ
審批ヲ取り然ル後ニ宣告ス
- 勸解手續概略
- 第一 凡ソ勸解ヲ乞フ原告者ハ第一號書式ノ如
キ名刺ヲ訴所ニ進達セシム

被告人 何ノ誰
 右ノ者儀有夫ノ婦
 ヲ姦通シタル被告
 事件ニ付明治年月
 日御拘留相成候儘
 今ニ入監仕居申候
 處右誰儀ハ當六十
 八歳ナル老母一人
 留守居仕居申候ノ
 ミニテ他ニ近親ノ
 者トテモ無御座實
 ニ今日ノ生計實ニ
 困難不日餓死致サ
 セ候有様ニ御座候
 間親友ナル私ニ於

- 第二 訴所詰名刺ヲ收メ第一號書式ノ如ク番號
ヲ朱書シ屬ニ出シ原告人ハ直ニ勸解席ニ至ラ
シム
- 第三 屬ハ其名刺ヲ受取り第二號書式ノ如ク請
取録ニ記載シ順次判事補ニ分賦ス
- 第四 掛リ判事補之ヲ受取り直ニ名刺ヲ携ヘ勸
解席ニ莅ミ原告人ヲシテ願意ヲ陳述セシメ直
ニ召喚狀ヲ下附ス
但シ証據アル者ハ檢閱印ヲ押ス
- 一 召喚狀之期ハ三日ヲ不可過
- 第五 期日ニ至リ原被出頭ヲ届出レハ直ニ勸解
席ニ至ラシメ而シテ掛リ判事補ニ申通スレハ
掛リハ直ニ席ニ莅ム

テモ實ニ傍觀ニ忍
 ヒス茲ニ請願仕候
 依テ治罪法第二百
 十條ノ御制規ニ依
 リ保釋御許可被成
 下度然ル時ハ治罪
 法第二百十三條ニ
 據リ私ヨリ御命令
 ノ保証金差出可申
 且保釋中ハ木人住
 所ニ於テ謹慎爲仕
 御呼出ノ節ニハ何
 時ニテモ出廷爲仕
 可申候尙實際ヲ保
 証スルタメ隣佑前

- 第六 勸解ニ服シタル節ハ雙方連印ノ日延書或ハ願下紙面ヲ出スヘキ旨ヲ命ス
 - 第七 願下ヲ爲ス時ハ紙面檢印ノ上名刺ヲ朱抹シ屬ニ附ス屬請取録ヲ朱抹シ編冊ニ入ル
 - 第八 若シ勸解ニ服セサル者アレハ名刺ヘ勸解不調ト朱書シ屬ニ通ス屬請取録ニ調印スルヲ書式ノ如シ
 - 第九 若シ原被同行出頭シテ勸解ヲ乞フ者アルモ亦妨ケナシトス
 - 第十 勸解中財産分配ヲ以テ濟方致度旨申出ル時ハ各債主ヘ示談ノ上分配スヘキ旨原被連印ノ紙面ヲ徴シテ一件落着トス
- 勸解願名刺ノ書 但シ半紙ニツ折ヲ用ユ

ニ戸長連印ヲ以テ
 此段奉願候以上
 明治年月日
 住所身分
 何ノ誰
 親友保 何ノ誰印
 誰人
 住所身分
 何ノ誰 何ノ誰印
 隣佑 何ノ誰印
 戸長
 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 豫審掛
 判事補氏名殿
 保釋ヲ願出ル事故
 ハ本文ニ限ルニ非
 ス他ノ事ニテモ止

<p>第一號</p> <p>勸解 何年何號</p> <p>何々勸解願</p> <p>年月日</p> <p>何區何町何番地 身分 原告人 姓名 印</p> <p>何區何町何番地 身分 被告人 姓名 名</p>	<p>第二號</p> <p>何々勸解願</p> <p>何區何町何番地 身分 原告人 姓名 印</p> <p>何區何町何番地 身分 被告人 姓名 印</p>
---	---

○地方裁判所職制

ムヲ得サル事故ナ
ラハ之レヲ記載シ
テ願出ヘシ又隣
佑並ニ戸長ノ連印
ハ一概ニ要スルニ
限ラス只タ丁寧ヲ
盡スト盡サ、ルト
ニアルノミ
第二十七 他人ノ
保證人タルトキハ
保證書警察署ヘノ
届書等ハ第二十三
第二十四ノ文例ニ
ヨルヘシ但彼レハ
自ラ差出スモノ之

號

何區何町何番地
身分
被告人 姓 名
年月日

原告代人アレハ右書式ノ第二號書ノ如クシ
テ別ニ代言届ヲ徴スルニ及ハス
請取録書式並濟口朱抹ノ式
但シ勸解不調ノ時ハ其印ヲ捺ス

番號 何區何町何番地
掛リ姓 身分 原告 姓 名

月日濟

何區何町何番地

レハ他ヨリ差出ス
モノナレハ只自他
ノ文面ニ差アルノ
ミ
第二十八 他人ヨ
リ金額ニ充ツ可キ
保證書ヲ差出スト
キノ文例

勸解不調

身分
被告 姓 名

保證書

住所身分

被告人 何ノ誰

右ノ者儀有夫ノ婦

ヲ姦通シタル被告

事件ニ付御拘留相

成候處明治年月日

○掛印

何區何町何番地
何 誰

右之者ヨリ約定違變
貸金其他勸解願出ルニ付

同道可罷出者也

東京裁判所

明治年月日

第一支 第三 應

○地方裁判所職制

保釋御許可相成候
間保釋願ニ基キ御
命令ノ保證金額ニ
充ツヘキ左ノ金額
私ニ於テ負擔仕候
印紙
一金五拾圓
右金額御命令ニ從
ヒ何時ニテモ上納
可仕依テ治罪法第
二百十三條第二項
ニ依リ保證仕候以
上

勸解手續
勸解ヲ願出ントスルモノハ先ツ其被告人ヲ管轄
スル治安裁判所ニ出願シテ勸解願ノ用紙ノ下付
ヲ申出テ一事件ニ一枚ヲ下付セセラレタルトキ
ハ別ニ該用紙ニ類セシ副本ヲ調製シ正副二本ト
ナシテ出願スルモノナリ但副本ニハ「號」「長」
掛」等ノ粹ヲ要セス又裏面ノ粹モ要セサルモノ
ナリ
第一 勸解願ノ用紙ハ左ノ如ク裏面ハ原告ニハ
用ナキモノナレハ略ス

何區何町何番地
何 誰

住所身分
保証人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
書記局御中

第二十九 被告人
ヲ親屬ニ責付セシ
トキ其親屬ヨリ差
出スヘキ證書ノ文
例左ノ如シ

責付保證書
住所身分
被告人 何ノ誰
右ノ者贓物故賣ノ
被告事件ニ付御拘
留相成居候處本日

明治年月日		事由	原告	被告	長掛
第	號				

願解勸
右願面中年月日ノ空欠へ其出願セル日ヲ記シ
「原告」トアル粹内へハ出願人即チ原告ノ住所
身分職業ヲ明細ニ記シ其ノ姓名ノ下ニ實印ヲ
押捺スヘシ又「被告」トアル粹内ニモ同様記
入スルモノナリ但シ捺印ハセサルナリ

私ニ貴付相成奉恩
候就テハ御呼出ノ
節ニハ何時ニテモ
出廷爲仕可申且又
貴付中ハ謹慎罷在
候様監護可仕候間
明治十四年第四十
七號布告第一條ニ
據リ茲ニ保證書差
出候以上
明治年月日
住所身分
右何ノ誰兄
保証人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所

「事由」トアル枠内ニハ即チ勸解ヲ出願スル其
理由ヲ記載スルモノニシテ成ルヘク簡單ニ記
載シ一目了解シ易キヲ主トス
右ノ願書ヲ差出シ而シテ原被對質ノ節證據書
類ヲ奉呈スルトキハ其證據書類ヘ勸解ノ調又
ハ不調ノ旨ヲ朱書シテ下付ヒラル若シ奉呈ス
ヘキ證據書類ノアラサルトキハ別ニ該願ノ理
由書ナルモノヲ奉呈シテ證據書類ニ代フルモ
ノナリ

第二 理由書ノ文例左ノ如シ

何々ノ理由書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地(寄留)平民(士族)

書記局御中

貴付中呼出ノ節出
廷セサルトキハ即
チ保証人ノ責ニ歸
スルモノタルヘシ
故ニ若シ出廷セサ
ルトキハ保証人ヨ
リ其事由ヲ認メ差
出スモノナリ
第三章 豫審上
訴
豫審ノ上訴トハ故
障ト見嚙ト回避ト
然シテ其ノ上告等
ナリ然ルニ回避ハ

原告人 何ノ誰

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地(寄留)士族(平民)

被告人 何ノ誰

一金何百圓

右ハ何々(其ノ何々ノ金タル性質ヲ記載スヘシ)

(又ハ)

一何々

右ハ何々(其何々物品タル性質ヲ記載スヘシ)

右ハ被告人某原告人某ヲ云々(其理由ヲ載スヘシ)

右何々ノ理由相違無之候以上

明治何年

右

何月何日

何ノ誰

何地治安裁判所

判事補氏名殿

右ハ美濃廿四行野紙ニ二十字詰ニ書シ一通差出スモノナリ

第三 本人病氣ニテ至親ノ者ヲ代人トナシ差出ストキノ文例左ノ如シ

代人許可願

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 何番地住(寄留)士族(平民) 何ノ誰

私儀今般何々ノ事件ニ付何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)何ノ誰へ係リ勸解上願候處病氣ニ付キ出廷難仕候間右ノ者ハ私

官ニ自ラ爲スモノ

ナルニハ暫ラク之

レヲ閣^{ガキ} 其他ノ

上訴ニ關スルモノ

ヲ示サントス

第一款 故障

第三十 故障ノ趣

意書ハ左ノ如キ文

例ナリ

故障趣意書

住所身分

被告人 何ノ誰

右被告人何ノ誰カ

富籤ヲ以テ利益ヲ

機倖スル被告事件

ニ付現今豫審中ニ

候處豫審判事ハ被

告人ニ對シ越權ノ

處分アリト思料候

間治罪法第二百三

十四條第四項ニ據

リ今般故障スル趣

旨左ノ如シ

云々(其ノ越權ノ

處分アリシ次第ヲ

法律ニ照シ條理ニ

推シ明瞭ニ記載ス

ヘシ)

右ノ理由ナルヲ以

テ會議局ニ於テ速

ノ弟ニ候得者當度代人トシテ出延爲仕度醫師診斷書并ニ戶籍寫相添此段奉御願候以上

明治何年

何月何日

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 何番地住(寄留)士族(平民) 何ノ誰 印

何地治安裁判所

判事補氏名殿

右モ美濃野紙廿四行二十字詰ニ一通差出スモノナリ

第四 醫師ノ診斷書左ノ文例ニ依ルヘシ

診斷書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 何番地住(寄留)平民(士族)

ニ正當ノ御裁決相
成度奉願候以上
明治年月日
右 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
會議局
判事御中
故障ヲ爲スコトヲ得
ヘキコトハ四項アレ
他ノ三項ハ被告
人ヨリ故障スルコ
甚タ稀ナリ多クハ
越權ノ處分一項ニ
止ルモノナリ
故障趣意書ハ二通

一體質 云々
一病名 云々
一病發 云々
一原因 云々
一徵候 云々
一處方 云々
一豫期 云々
右ハ私施療ノ患者ニ相違無之候以上
明治何年 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何月何日 何番地住(寄留)士族(平民)
醫業 何ノ誰印

差出スヲ至當トス
ヘシ
第二款 忌避
第三十一 忌避申
立ノ趣意書左ノ文
例ノ如シ

忌避趣意書
住所身分
被告人 何ノ誰
右被告人何ノ誰ハ
窃盜被告事件ノ豫
審中ニ候處今般豫
審判事ヲ忌避ス可
キ理由アルコトヲ了
知仕候間治罪法第

第五 至親ノ者ナキヨリ他人ヲ代人トスルルノ
願書文例

代人許可願
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
何ノ誰
私義今般何々ノ事件ニ付何府(縣)何國何郡(區)何
町(村)何番地住(寄留)士族(平民)何ノ誰ヘ係リ勸
解上願候處何々(出頭)シ難キコトヲ記スヘシ)ニ付
出廷難仕差向キ至親ノ者モ無之候間右之者ヲ代
人トシテ出廷爲仕申度(病氣ナラハ此ノ處ヘ「醫
師診斷書相添ヘ」ノ字ヲ加フヘシ)戸長ノ公証ヲ
受ケ此段奉御願候以上

二百三十七條第三項(或ハ第二項或ハ第一項)ニ據リ
 忌避ノ申立ヲ爲ス
 趣意左ノ如シ
 云々(豫審判事ヲ
 忌避スヘキコトハ三
 項アリ其ノ中ノ理
 由ヲ明細ニ記載ス
 ヘシ)
 右ノ理由ナルヲ以
 テ忌避ノ申立ヲ御
 認可相成度奉願候
 以上
 明治年月日

明治何年
 何月何日

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 何ノ誰

何地治安裁判所
 判事補氏名殿

戸長ノ公証ハ人民ノ爲スヘキモノニ非サルニハ
 茲ニコレヲ略ス但シ用紙美濃野紙認方如前
 第六 遲參セシトキノ理由書左ノ如シ

遲參理由御届

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 何ノ誰

右ハ私儀何ノ誰ニ對シ何々事件ノ御勸解奉願本

右 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 豫審掛
 判事補氏名殿
 右ハ二通ヲ書記局
 ニ差出スコトス
 第三十二 忌避ノ
 申立ヲ棄却セラレ
 タル片故障ヲ爲ス
 トキノ趣意書ハ左
 ノ文例ノ如シ
 忌避ヲ棄却サレ
 タル故障趣意書
 住所身分
 被告人 何ノ誰

日御指日ニ候處出頭ノ途中何々ノ事故アリテ不
 得止遲參仕候間(事變ナラハ)該戸長ノ保証相受
 ケトシ病氣ナラハ「醫師診斷書相添ヘ」トスヘシ
 右ノ理由及御届候以上

右 何ノ誰印

明治何年
 何月何日
 何地治安裁判所
 判事補氏名殿

不參ノ時モ右ニ准シテ其理由ヲ届出ルモノナリ
 但シ美濃廿四行野紙ニ二十字詰ニ認如前
 第七 勸解ノ説諭ニ應シテ原被兩造ノ間ニ和濟
 セシトキノ濟口ノ書面文例

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

右被告人何ノ誰ハ
窃盜被告事件ニ付
豫審中豫審判事ヲ
忌避スヘキ理由ア
ルヲ了知シタル
ニハ明治年月日忌
避ノ申立ヲナセシ
ニ之レヲ棄却セラ
レタリ依テ今般治
罪法第二百三十九
條ニ據リ故障ヲ爲
ス趣意書左ノ如シ
忌避申立ノ趣意書
并ニ豫審判事ノ棄
却ノ寫シ左ノ如シ

何ヤノ勸解濟口ノ御届

何番地住(寄留)士族(平民)
原告人 何ノ誰

何府縣(何國何郡(區)何町(村))
何番地住(寄留)士族(平民)
被告人 何ノ誰

右原告人何ノ誰ヨリ被告人何ノ誰ニ係ル何ヤノ
御勸解上願候處本日御呼出ノ上御説諭ニ基キ原
被熱濟仕該御勸解相調申候間此段御届仕候以上
明治何年 右
何月何日 何ノ誰印
何地治安裁判所何等出仕氏名殿
判事補氏名殿 (又ハ)

被告召喚ノ指日前ニ濟口ヲオスモ右ニ準スルモ

云々(此ノ處ニ忌
避申立ノ趣意書ノ
全文ト其紙尾ニ記
載セシ棄却文トヲ
其儘ニ記載スヘ
シ)
云々(棄却スヘカ
ラサルモノヲ棄却
セシニ付不當ナリ
トスル理由ヲ明瞭
ニ記載スヘシ)
右ノ理由ナルヲ以
テ會議局ニ於テ速
ニ忌避ヲ認可スヘ
キ御裁決相成度奉

ノナリ 但シ用紙如前

始審手續

始審ハ金高ノ多少ニヨリテ治安裁判所ニ訴フル
モノト始審裁判所ニ訴フルモノトノ別アレトモ
其文例ハ異ナルニアラス只タ宛所ノ異ナルノミ

第一款 訴狀

至急ヲ要スル商事及ヒ郡區長又ハ官廳ニ對スル
訴狀等ハ勸解ヲ經ルニ及ハス直ニ訴訟スルモ可
ナリトス故ニ斯クノ如キハ以下ノ文例中勸解云
々ノ文言ヲ除クヘシ

訴狀ハ渾テ後ノ訟訴用印紙規則ニ照シ貼用スヘ
シ但シ用紙美濃正副ニ通記載方等如前
第八 訴狀ノ表紙書式左ノ如シ

訴答文例附錄 第一號

明治何年何月何日

何々ノ訴狀 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地住(寄留)士族(平民)

原告人 何ノ誰

代人又ハ代理人ヲ以テ訴フルトキハ其ノ住所身分姓名ヲ左ノ如ク認ムヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)何
誰代理人(代人)何府(縣)何
國何郡(區)何町(村)何番地
住(寄留)平民(士族)

原告 何ノ誰
代理人

願候以上

明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪判所

會議局

判事御中

第三十三 書記ヲ

忌避スルトキハ會

議局ニ申出ルモノ

ナリトス其文例ハ

前例ニヨルヘシ檢

察官ハ忌避スルコ

ト得ヌ

第三款

豫審終結言渡ニ

對スル故障

豫審終結ノ告渡ニ

對シテ被告ノ爲

ス故障ハ豫審判事

ノ管轄遠越權其事

件ヲ移ス可キ裁判

所ノ管轄遠ノ三件

ニ過キス其内多ク

ハ越權ニ歸スルモ

ノニテ往ノ二件ハ

至テ稀レナルヘ

シ

第三十四 依テ其

越權ニ付テノ故障

申立書ノ文例左ニ

訴狀表紙ハ渾テ右ニ準スルモノナリ

第九 貸金催促訴狀ノ文例左ノ如シ

訴答文例附錄 第二號

原告人

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地住(寄留)士族(平民)

何ノ誰

(若シ代理人又ハ代人アル
ナラハ第八例表紙ノ如ク
認ムヘシ以下諸州皆ナ同
シ)

貸金催促ノ訴

被告人

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地住(寄留)平民(士族)

何ノ誰

一元金何圓

(明治何年何月何日貸附
明治何年何月何日期限)

故障申立書
住所身分
被告人 何ノ誰
右私儀富籤ヲ以テ
利益ヲ燒俸スル被
告事件ニ付豫審終
結言渡相成候處右
ハ不當ノ言渡ト奉
存今般故障仕候間
治罪法第二百四十
八條ニ據リ此段申
立候以上
明治年月日
右 何ノ誰印
何地轉罪裁判所

一利金何圓 (一ヶ年何割何分ノ利
何年何ヶ月分如上)

一利金何圓 (一ヶ年何割何分ノ利
期限後何ヶ月分如上)

惣計金何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

明治何年何月何日勸解不調印上朱書

一金云々(借用證文寫ノ全文ヲ載スヘシ)

右原告人(代人又ハ代理人アルトキハ「右原告代
人」右原告代理人」トスヘシ)何ノ誰申上候原告
ハ前記ノ金額ヲ貸附ケ云々(期限ニ至ルモ拂出
テサル事由ヲ記載スヘシ)不得止勸解上願セシ
ニ被告ハ云々(勸解廷ニテ被告ノ述ヘシ概略ヲ
記載スヘシ)明治何年何月何日勸解不調ト相成

會議局
判事御中
第三十五 其ノ趣
意書ハ
故障趣意書
住所身分
被告人 何ノ誰
右被告人何ノ誰ハ
富籤ヲ以テ利益ヲ
燒俸スル被告事件
ニ付爲サレタル何
地輕罪裁判所豫審
判事ノ豫審終結言
渡ハ越權ノ處分ア
リト思料仕候間治

候間今般出訴仕候依テ被告人御召喚ノ上速ニ元
利返濟致シ併ヒテ訴訟入費モ辨償仕候様御裁判
奉仰候以上

明治何年
何月何日
右 何ノ誰
何地始審裁判所長
判事氏名殿

「貸附米ノ淹滞」「田畠ヲ貸渡シタル小作米金」「物
品ノ損料金」「諸種ノ立替金」「召抱人等ノ引負金」
「職人等ノ前貸米金」「貸地貸家等ヲ受取ラントス
ル訴」等ハ渾テ右之例ニヨルヘシ 但シ美濃廿四行界
紙二十字詰ニ認ム

第十 第九ノ訴狀ニ代言人又ハ代人ヲ用ユルト
キハ左ノ如ク與書スヘシ以下文例皆ナコレニ依

罪法第二百四十六

條第三項ニ據リ今

般故障スル趣意左

ノ如シ

第一條

何地輕罪裁判所豫

審判事ノ豫審終結

言渡書ノ寫左ノ如

シ云々(言渡書ノ

寫ノ全文ヲ記載ス

スヘシ)

右ハ行政處分ニ止

ルモノナルヨ司法

ノ處分トセラレタ

ルハ裁判官ノ權限

ルヘケレハ略ス但シ用紙認方如前

明治何年

何月何日

右

何之誰印

(但シ代言人又ハ代人ノ
署名捺印ナリ)

前書ノ儀原告私ヨリ御願可申上管ニ御座候處何

々(其事故ヲ記載スヘシ)ニテ難罷出候儀ニ付代

言人代言人ニ非サレハコノ三字ヲ省ク何ノ誰ニ

代人相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ

御受仕候事柄共後日ニ至リ私ヨリ異議申上問敷

候爲後日與印仕候

明治何年

何月何日

右原告人

何ノ誰印

何地始審裁判所長

判事氏名殿

ヲ越シテ行政ニ踏
入シタルモノナリ
ト云フヘシ

第二條

云々 終結言渡書

ヲ詳細トシテ越權

シタルノ所以ヲ論

辨シテ記スヘシ

第三條

云々 無罪タルヘ

キ理由ヲ記載スヘ

シ

請求

右條々ノ理由ナル

ヲ以テ治罪法第二

委任狀ハ通常ノ文例ニヨルヘシ

代言人ニ非サルモノニシテ代人ヲナスニハ明治

十七年一月太政官第壹號布達ニヨリ左ノ如キ上

申書ヲ差出スモノナリトス

上申書

私儀今般原告人何ノ誰ヨリ被告人何ノ誰ニ係ル

何々ノ訴訟事件ヲ受ケ何ノ誰ノ代人トシテ出頭

仕候右ハ明治十七年太政官第壹號御布達ノ趣モ

有之佗ニ訴訟事件ノ代人ハ決シテ相兼居不申此

段上申仕候以上

百五十二條第二項
ニ據リ言渡ノ全部
ヲ取消シ刑法第二
條ニ法律ニ正條ナ
キモノハ何等ノ所
爲ト雖此之ヲ罰ス
ルコトヲ得ストアル
ニ照シ更ニ無罪ノ
御言渡有之度參願
候以上
明治年月日
右 何ノ誰印
何地輕罪裁判所
會議局
判事御中

明治何年
何月何日
何府(縣)何郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士族(平民)
何ノ誰印
何地始審裁判所長
判事氏名殿

(其他代人願等ハ勸解ノ部ヲ參考スヘシ)
右ノ上申書ハ美濃廿四行野紙ヲ用ユヘシ
第十一 賣掛代金淹滞ノ訴狀文例左ノ如シ
訴答文例附錄 第三號

賣掛代金淹滞ノ訴
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
原告人 何ノ誰
何府(縣)何國何郡(區)何町何
番地住(寄留)士族(平民)
被告人 何ノ誰
里程 何里何町何間
(被告人八里以外) (裁判所)ニ
アルトキハ里程ヲ斯ク記ス
ヘシ他ノ訴狀皆ナ同シ)

右司法ノ權ヲ行政
ノ權ニ踏入セシ故
障ナリ尙ホ其他夥
多越權ノ處分モア
ルヘケレハ宜シク
其越權ノ類ニヨリ
其趣意ヲ記載スヘ
シ

第四款 附錄
趣意書ニハ必ス對
手人ノ答辦書ヲ要
スルモノナリ其答
辦書ノ文例ハ上告
答辦書ヲ參看シテ
引用スヘシ

一金何圓
右賣掛帳ノ總計高ニ御座候
但帳面ニ被告人ノ証印有之候
(若シ別ニ証文アルトキハ右ノ二行ニ代フル
ニ証文ノ寫ヲ以テス)
右証文ノ寫左ノ如シ

趣意書ニ漏レタル
 丁アラハ上申書ヲ
 差出スモ可ナリ其
 上申書ハ概ネ上告
 辨明書ニ類スルモ
 ノナルヘケレハ彼
 ヲ參看シテ引用ス
 ヘシ
 附帶ノ故障モ又タ
 附帶ノ上告ノ文例
 ニヨルヘシ
 第四章 公判
 公判中ニモ豫審ノ
 如ク保釋責付等ノ
 文例ハ豫審ノ部ヲ

云々(証文ノ全文ヲ載スヘシ)
 右原告人何ノ誰申上候云々(第九文例ニ準スヘ
 シ以下ノ文例皆ナ同シケレハ別ニ註解セス
 明治何年
 何月何日
 何地始審裁判所長
 判事氏名殿
 但シ美濃廿四行野紙
 ニ二十字詰ニ認ムヘシ

第十二 手附金賣買違約ノ訴狀文例左ノ如シ
 訴答文例附錄 第四號
 但本例ハ原告數人ナリ凡文例之レニ準ス

參看引用スヘシ
 忌避モ亦タ同シ
 拘留ヲ受ケタル者
 上訴ハ源テ監獄長
 ノ手ヲ經ルモノト
 ス

買附米引渡違約ノ訴
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)何
 誰外何名惣代兼代人
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 原告人 何ノ誰

第一款
 辨護人撰定
 第三十六 免許代
 言人ヲ辨護人トス
 ルトキノ屆書ハ
 辨護人撰定届細
 廳所屬代言人
 何ノ誰
 私儀何々ノ被告事

一米何石 (明治何年何月何日買取約
 定濟此度受取ル可キ石高)
 代金何圓 (一石ニ付
 金何圓換)
 内何圓 (明治何年何月何日
 手附金トシテ渡濟)
 殘何圓 (明治何年何月何日限リ
 現米引替渡ス可キ約定)

件ニ付豫審終結ノ
 上何地輕罪裁判所
 へ移スノ旨渡相成
 候間不日公判辨論
 ノ箇右ノ者ヲ辨議
 人ニ選任仕度治罪
 法第二百六十六條
 ニ依リ此段御届仕
 候以上
 明治年月日
 住所身分同前
 被告人 何ノ誰
 何地輕罪裁判所長
 判事氏名殿

右約定證書ノ寫左ノ如シ
 約定證書
 云々 (約定ノ全文ヲ載スヘシ)
 右原告人惣代兼代人何ノ誰申上云々
 明治何年 右 何ノ誰印
 何月何日
 前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上管ニ御座
 候處何々ニテ難罷出ニ付何ノ誰へ惣代兼代人相
 頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕
 候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異儀申上間敷爲後
 日奥印仕候
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 何ノ誰印

第三十七 代言人

ニ非サルモノヲ辨
 識人ニ撰定スルト
 キハ第二百六十六
 條第二項ニ據リ此
 段云々ト記シ餘ハ
 異ナルコトナシ
 第三十八 一名ノ
 辨議人ニテ數件ノ
 被告人ヲ辨議スル
 ニハ
 辨議人選定願
 住所身分同前
 何ノ誰
 私儀何々ノ被告事
 件ニ付豫審終結ノ

明治何年 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何月何日 何番地住(寄留)士族(平民)
 何ノ誰印
 何地始審裁判所長
 判事氏名殿
 右ハ買附米引渡違約ノ訴ナレレ之ニ反シテ賣附
 米金引渡違約ノ訴モ亦タ右文例ニ同シ
 受負料淹滞ノ訴田畑山林等賣買違約ノ訴モ亦タ
 右ニ準スヘシ
 第十三 奉公人違約ノ訴文例左ノ如シ但雇人數

○始審手續

名違約シタルモノニカ、ル

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
原告人 何ノ誰

奉公人違約ノ訴

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
被告人 何ノ誰
元何府(縣)何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
被告人 何ノ誰
右何ノ誰ハ明治何年何月何日脱
走仕今ニ行衛相分ラサル段何地
戸長何ノ誰ヨリ承知仕候
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

上何地輕罪裁判所
へ移スノ言渡相成
候間不日公判辨論
ノ節右ノ者ヲ辨護
人ニ選任仕度尙右
ノ者ハ何ノ誰ノ辨
護受任中ナルヲ以
同人ノ承諾ヲ受ケ
治罪法第三百七十
八條第三項ニ據リ
此段奉願候以上
明治年月日
住所身分同前
被告人 何ノ誰印
前書何ノ誰ハ私何

何番地住(寄留)士族(平民)
被告人 何ノ誰

右何ノ誰ハ明治何年何月何日死
亡致候段何地戸長何ノ誰ヨリ承
知仕候

- 一 明治何年何月何日雇入
- 一 満何年間雇ノ約定

一 前渡金何圓

一ヶ月(年)金何圓ノ定メ
明治何年何月何日ヨリ
明治何年何月何日マテ
何年間ノ給料金ニ當ル

右證文ノ寫シ左ノ如シ

證文

云々 (證文ノ全文ヲ載スヘシ)

右原告人何ノ誰申上候云々(雇入タル時ノ譯柄

辨護人改撰願

第三十九 辨護人
改撰願ハ左ノ文例
ノ如シ

住所身分同前
被告人 何ノ誰印
何地輕罪裁判所長
判事氏名殿

々ノ被告事件ノ辨
護受任中ニ候處今
般何ノ誰ノ辨護ヲ
モ兼任致ス儀ハ私
ニ於テ異儀ヲ申立
テス承諾仕候以上
明治年月日

住所身分同前
 何ノ誰
 私何々ノ被告事件
 ニ付公判辨論ノタ
 メ何府(縣)何國何
 郡(區)何町(村)何番
 地住(寄留)士族(平
 民)何ノ誰ヲ辨論
 人ニ撰定仕候處何
 ヲノ事故アルヲ以
 テ今般有ノ者ニ改
 撰シ辨護授任爲仕
 度治罪法第三百八
 十條第二項ニ據リ
 此段奉願候以テ

ト違約ノ仔細トヲ記載スヘシ
 明治何年 右 何ノ誰 印
 何月何日
 何地始審裁判所長
 判事氏名殿

「職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期
 ヲ約シ年期未滿内ニ家出シテ還ラサルモノ」奉
 公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル
 ヘキ給米金ノ淹滞「モ右ノ例ニ準スルナリ
 第十四 夫妻離別ノ訴狀文例左ノ如シ
 訴答文例附錄 第六號

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何

明治年月日

住所身分同前
 被告人 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所長
 判事氏名殿

第四十 辨護人カ
 被告事件ノ訴訟書
 類ヲ抄寫セントス
 ルトキノ文例ハ
 一件書類騰寫願
 住所身分同前
 被告人 何ノ誰
 右ノ者何々ノ被告
 事件ニ付私儀公判
 辨論ノ節辨護人ニ

妻離別ノ訴

番地住(寄留)士族(平民)
 原告人 何ノ誰

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何
 番地住(寄留)士族(平民)
 被告人 何ノ誰

夫 何ノ誰

(明治何年何月何日)

妻 何ノ誰

(明治何年何月何日)

何地戸長役場ニ差出置候明治何年何月何日ノ戸
 籍人別帳ノ寫左ノ如シ

人別帳式

(明細ニ其ノ文意ヲ記載スヘシ)

右原告人何ノ誰申上候云々

○始審手續

受任仕候間該事件
ノ訴訟書類一切抄
寫仕度御許可奉願
候以上

明治年月日

住所身分同前

辨證人 何ノ誰印

何地輕罪裁判所

書記局御中

辨證人願ハ二通ヲ

要ス届ナレハ一通

ニテ可ナリ陰寫願

モ一通ニテ可ナリ

第二款

管轄違又ハ公訴

明治何年

何月何日

右

何ノ誰印

前書申上候處相違無御座候

明治何年

何月何日

原告人

原告人ノ祖母何ノ誰印

何地始審裁判所長

判事氏名殿

右ハ原告人夫ナリ若シ原人告妻ナルトキハ其父
母親族等ヨリ訴フルモノナリ然レ此事ノ危急ニ
出テシトキハ自ラ訴フルモ妨ケナシトス右文例
中ノ奥印ハ親族ノ内尊屬ノ親ヲ要ス若シ無ケレ

受理ス可カラサ
ルノ申立

第四十一 管轄違

申立書ノ文例

管轄違申立書

住所身分同前

被告人(又ハ民事)

何ノ誰

右ハ私儀何々ノ被

告事件ニ付現今御

公判中ニ御座候處

本件ハ違警罪ニ歸

スルモノト思料仕

候間治罪法第二百

七十七條ニ據リ違

ハ同等ノ親或ハ卑屬ノ親或ハ近隣又ハ親友ノ内
二名以上ニ限ルヘシ

養子女離別ノ訴及家督相續ノ訴モ右ニ準ス

第十五 經界ヲ爭フ訴狀ノ文例左ノ如シ

訴答文例附錄 第七號

兩村ノ經界ヲ爭フノ訴

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)士族(平民)何ノ誰
外何名惣代兼代人何府(縣)何國
何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
平民(士族)
原告人 何ノ誰
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)平民(士族)
被告人 何ノ誰

警罪裁判所ニ被移
度此段管轄申立
候也

明治年月日

右 何ノ誰印

何地輕罪裁判所長
判事氏名殿

第四十二 公訴受
理ス可カラサル申
立書ノ文例

公訴受理ス可カ
ラサル申立書

住所身分同前

被告人(又ハ民事
擔當)

何ノ誰

(以下數名アラハ列記載スヘシ)

一繪圖面何枚

但別紙甲第一號ヨリ甲第何號ニ至ル

一舊記何冊

但別冊乙第一號ヨリ乙第何號ニ至ル

右原告惣代理人申上候云々(被告村ノ非理ナ
ルヲ舊記繪圖面ニヨリ甲又ハ乙第何號云々ト
シテ記載スヘシ)

明治何年

何月何日

右 何ノ誰印

前書ノ儀原告私共云々以下ノ文例且ツ署名捺印
等ハ第十二文例ニヨル故ニ略ス)

何地始審裁判所長

判事氏名殿

舊記繪圖ハ別冊トナシ目錄ヲ付シ盡ク番記號ヲ

朱書スヘシ

舊記ハ略スレモ繪圖ハ左ニ例ヲ示ス但原告村ハ

淺黃色トナシ被告村ハ黃色トナシ争フ所ノ區域

ハ着色ヲ用ヒス其他ハ其他ノ色ヲ以テ區別ヲ立

ツハシ

甲第何號(上ハ朱書ナリ) 何枚之一

年號干支何月何日ノ原圖

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何
番地住(寄留)平民(士族)何ノ誰
外何拾何名惣代
原告人 何ノ誰印

右ハ私儀何々ノ被
告事件ニ付現今御
公判中ニ御座候處
本件ハ被害ト私和
(告訴ヲ待テ受)
理スヘキモノ仕
候ニハ治罪法第九
條ニ據リ公訴ヲ受
理スヘカラサルモ
ノト思料仕候間治
罪法第二百七十七
條ニ據リ此段申立
候也

明治年月日

右 何ノ誰印

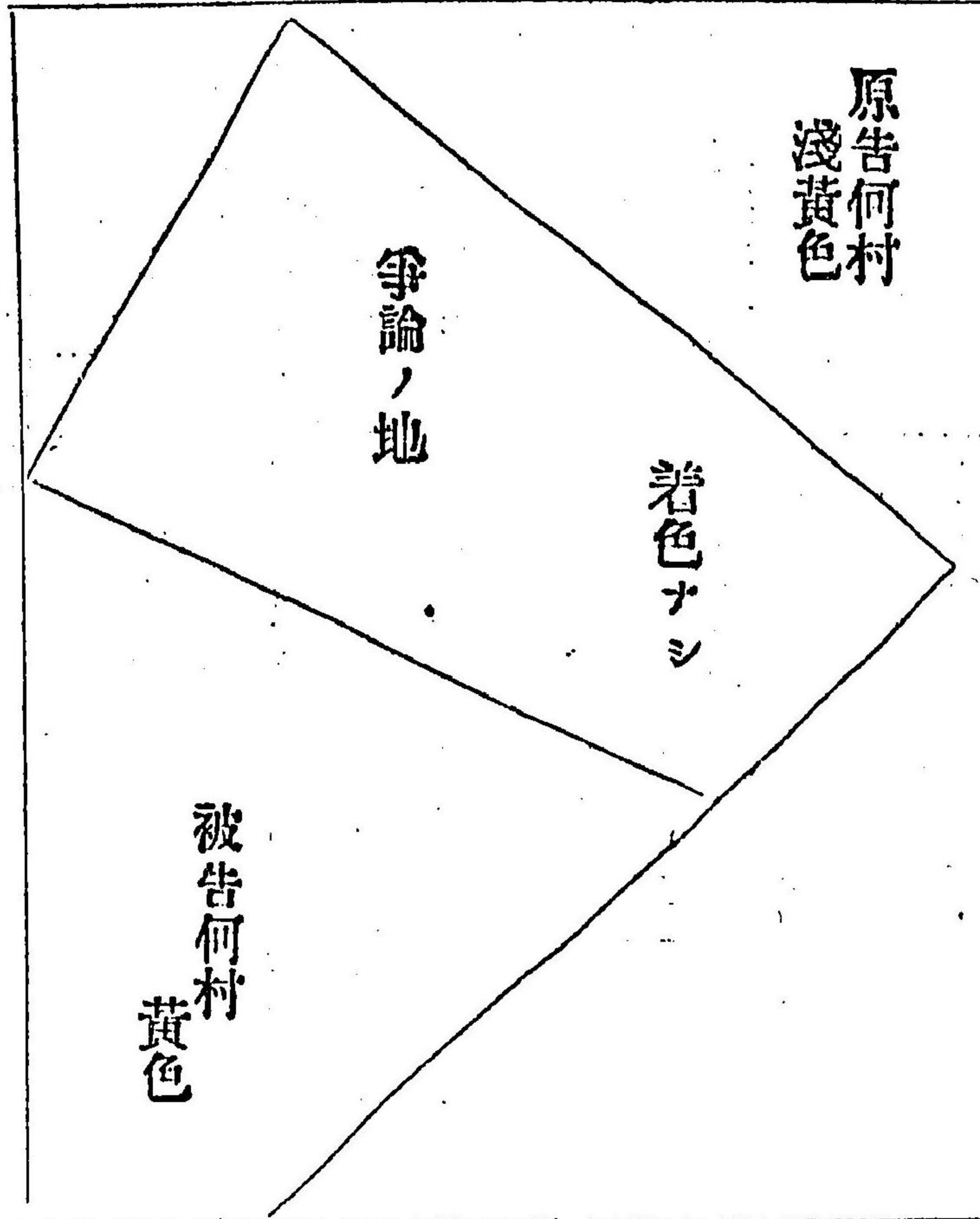
何地輕罪裁判所長

○始審手續

判事氏名殿

公訴ヲ受理スヘカ
ラサルモノトハ治
罪法第九條ナル被
告人ノ死去告訴ヲ
待テ受理ス可キ事
件ハ被害者ノ棄權
又ハ私和確定裁判
犯罪ノ後頒布シタ
ル法律ニ因リ其刑
ノ廢止大赦期滿免
除ノ六項ナリ故ニ
夫々ノ項ニヨリ夫
々ノ文休トナスヘ
シ

原告何村
淺黄色



被告何村
黄色

本款二例ノ申立ハ
多ク公判庭ニテ口
陳スヘキモノナレ
比書面ヲ以テスヘ
カラサルモノニア
ラサレハ今茲ニ載
セス

第三款

裁判言渡ノ曆
本ヲ求ム

第四十三 裁判言
渡書ノ曆本ヲ請求
スル文例左ノ如シ
但上訴ノ爲メニス
ルモノニカハル

右ハ只タ色別ケヲ示シタルモノナリ尙本圖面ニ
至リテハ素ヨリ其土地ノ形状ニ應シテ細密ニ書
クヘシ

第十六 「預ケ米金」「借地等ノ敷金」妻及ヒ養子
如第ノ持參金」「實家若クハ親族等ノ仕送り
金」等ニカハル訴狀ハ概テ第九ノ文例ニ據ル
ヘシ

第十七 公訴ニ附帶セサル私訴ノ文例

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)
原告人 何ノ誰
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地住(寄留)士族(平民)何
ノ誰民事擔當人

贓金取戻ノ訴

○始審手續

裁判言渡書
 贈木御下付願
 住所身分同前
 被告人 民事原告人
 民事擔當人
 何ノ誰
 右ハ私儀何々ノ被
 告事件ニ付本日裁
 判御言渡相成候間
 該贈木御下渡相成
 度明治十四年司法
 省甲第七號御布達
 ニ依リ費用上納可
 仕候依テ治罪法第
 三百十五條ニ據リ
 此段奉願候以上

一金何圓 (明治何年何月何日ヨリ相渡シタル分)
 但被告人カ原告人ヲ詐キ偽リテ取リタル金額ナリ
 一利金何圓 (明治何年何月何日ヨリ一ケ年何割何分ノ利息何年何ケ月分利金如上)
 合計金何圓
 何地輕罪裁判所ノ裁判言渡書ノ寫左ノ如シ
 裁判言渡
 云々 (言渡書ノ全文ヲ記載スヘシ)
 右原告人何ノ誰申上候云々 (詐偽取財ノ贓金並

但本日ノ裁判言
 渡ニ對シ上告仕
 候間治罪法第三
 百十五條但書ニ
 據リ至急御下付
 相成度候
 明治年月日
 右 何ノ誰印
 何地輕罪裁判所
 書記局御中
 上訴セサルモノハ
 但書ヲ除キテ差出
 スヘシ
 第四十四 無資力
 者ヨリ裁判言渡書

ニ夫レカタメ損害ヲ受ケシ利金ヲ民事擔當人ニ
 請求スル理由ヲ記載スヘシ
 明治何年
 何月何日
 何地始審裁判所長
 判事氏名殿
 第十八 損害要償訴狀ノ文例左ノ如シ
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 原告人 何ノ誰印
 何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地住(寄留)士族(平民)
 被告人 何ノ誰印
 損害要償ノ訴

○審治手續